場合及ヒ方法ニ準シテ放任セラルベシ

(二)然レトモ吾輩ハ亡産人「コンコルダ」ヲ結フヲ得サルトキ諸債主集合ノ際ナレバ裁判所ハ更ニ此管財人ノ保職若クハ放任上ニ就テハ諸債主ニ商議シ之ヲ處分スルヲ得ベシ(商法第五百二十九条参看)

管財人ハ何時ニ於テモ三名ヲ置クヲ得ベシ而シテ債主若クハ他人ニ就テ之ヲ選撰スヘシ然レトモ詐偽ヲ防キ及ヒ代理人處分ニ就テ債主ヲ保護スルカ為メニ亡産人ノ親属四等親以上

ノ者ヲ以テ管財人ト為スヲ得ス

管財人ハ債主又ハ不債主ノモノタリトモ其處分ノ精算ヲ終結セシ後ハ酬勞金ヲ得ヘシ其額ハ主任判事ノ申報ニ依リテ裁判所ノ定ムル所ノモノトス(書式第百四十四条)

註 裁判院ノ決議ニ曰ク管財人ノ酬勞金ヲ定メタル宣告ハ若シ主任判事ノ申報ニ依ルモノニ非ルトキハ無効タルベシ(千八百四十一年十二月二十二日ノ決議)

然レトモ或ル論者ノ説ニ曰ク再ヒ第四百六十

二条ニ準シテ諸債主ニ商議シ其所見ヲ問質スルヲ要セサルナリト此意見ニ於ケルヤ第四百六十四条中第四百六十二条ノ意ト符合スルモノハ裁判所ノ管財人ヲ撰任スルノ方法ノミナリ

第四百六十六条○債主若クハ亡産人ハ管財人ノ處分公同ノ利益ニ非サル者アリト認ムルヲ以テ訴訟ヲ為サンコトヲ求ムルニ於テハ主任判事ニ之ヲ訴フヘシ然ルトキハ主任判事ハ三日ヲ限リ其裁決ヲ為スヘシ訣裁決ハ假リニ之ヲ施行スト雖モ不服ノ者ハ之ヲ商事裁判所ニ控訴スルコトヲ得ヘシ

第四百六十七条○裁判所ハ管財人ヲ放任セシムルヲ得蓋シ先ツ評事局ニ於テ主任判事ノ申告ト管財人ノ辨明トヲ査明セシ後公廷ニ於テ放任ヲ宣告スヘシ(書式第百四十六条)○管財人一名若クハ数名ノ放任ヲ要求スル亡産人及ヒ諸債主ハ其意ヲ主任判事ニ通知シ其発議ヲ起スコトヲ請求スヘシ若シ八日ヲ経ルト雖モ主任判事其請求ヲ受理セサルトキハ本人等直チ

ニ裁判所ニ訴訟ヲ為スヲ得ヘシ

主任判事ハ亡産人及ヒ諸債主ノ請求ヲ待タスシテ其職務ヲ以テ管財人ノ放任ヲ裁判所ニ請求スルヲ得ヘシ

第五章亡産管財人ノ職務

第一款總規則

吾輩ハ此章ニ於テ債主亡産人ノ間ニ「コンコルダ」ヲ結テ亡産人ノ失權ヲ回復シ商業ヲ自任セシムルニ至ル迄或ハ「コンコルダ」ヲ為サヾル片ハ集合(コンヨン)ト稱スル亡産ノ變況ニシテ諸債主ガ亡産人ノ貸高ヲ拾集シ財産ヲ處分シ其全額ヲ分配センカ為ニ集合スル場合ニ至ルマテノ亡産管財人ノ職務ヲ論スヘシ

註本章ハ專ラ確定亡産管財人ノ職務ヲ論ス

何トナレハ假定亡産管財人ハ暫時ノ在職中施行ヲ得ザル職務夥多ナレハナリ

吾輩ハ後項ニ於テ集合以後ノ亡産管財人ノ職務ヲ論スヘシ

亡産管財人ハ債主及ヒ亡産人ノ代理者ヲ以テ彼此ノ利益タルヘキ處分ヲ為サヾルベカラズ則亡産人財産ノ目録(商法第四百七十九条)貸金ノ收拾(第四百八十五条)ヲ為シ且ツ主任判事ノ許可ヲ得テ動産并ニ商品糶賣ノ處置ヲ為ス(第四百八十六条)又債主ニ對シテ亡産人ノ權利ヲ

保存スヘキ各種ノ處分ヲ為ス（第四百九十条）又タ負債檢査ナル重要ナル處分モ亦亡産管財人ノ任スル所タリ（第四百九十一条及ヒ其次条ヲ見ルベシ）

凡ソ亡産管財人数名アルトキハ協議シテ處分ヲ為スヲ要ス決シテ各自ニ處分スルヲ得ス

然レトモ諸管財人ハ其處分ニ就テ干連ノ義務ヲ有スルヤ否ヤノ問題ハ極テ議者ノ討論セシ一難義タリキ

第一説○干連ノコトハ推測論ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ス必スヤ條約若クハ法律ヲ以テ特ニ之ヲ定示セザルベカラズ（拿破倫法典千二百二条）且ツ亡産管財人ハ代理者タリ則チ同事上ニ代理数名アルトキハ相互ノ間ニ豫メ確言セシモノアルニ非ザルヨリハ干連ノ義務ヲ有スルコトナシ（拿破倫法典第千九百九十五条ヲ参看スヘシ）拿破倫法典第千九百九十五条ハ代理者裁判所ヨリ其職ヲ受ケタル場合ニ在テハ之ヲ施行スルヲ得スト謂ヘル論者アリト雖モ是レ無

誓ノ論ト謂ツベシ嘗テ法律中ニ凡ソ裁判所ヨリ命セラレタル代理者ハ干連ノ義務ヲ有スヘシト掲載セシコトナシ

第二説○亡産管財人ハ一体ノ代理ヲ有シ各自ニ處分ヲ為スヲ得ス其處分協同ヲ要スレハ其責任モ亦干連セザルヘカラズ此塲合ニ於テハ委任者カ撰舉權ヲ專有セル通常ノ代理ニ関スル規則ヲ用フルヲ得ス蓋シ裁判所ニ於テ命セラレシ主管人ニシテ其責任ハ一ニ法律ヲ以テ定ムルモノニ係ル故ニ第四百六十五条ハ亡産管財人ニ附スルニ協同セサレハ處分ヲ為スヲ得サルノ責任ヲ以テシテ全ク該問題ヲ終結セリ乃チ亡産管財人中ノ各名ハ同僚ノ和同ナクシテ處分ヲ專斷スルヲ得ス必スヤ相共ニ合併シテ處分スルヲ要スレハ真ニ一名ノ主管人タルモ同一般ナリ故ニ干連ノ義務ヲ有セスト謂フノ理ナキハ判然タリ且ツ商賣上ニ就テハ凡ヘテ連帶ノ義務ハ合同施行セシ事業ニ之ヲ附行スルモノナリ○此説ノ意味ニ就テハ裁判事例中ニ往々其實證アルヲ見ルベ

シ

第三説○亡産管財人ハ相協同スルニ非サレハ處分ヲ為スヲ得ス其任スル所ノ主管ハ惣員ニ屬シ其擔フ所ノ監察ハ總員之ヲ施行スルヲ要ス故ニ怠慢及ヒ過誤アルトキハ其責總員及ヒ各名ニ歸スルモノニシテ全ク皆償還ノ責ニ任セサルヲ得ス

勿論總員ノ為メニ一名訴訟ニ係ルコトアルベシ其責タルヤ完全ナル連帶ヲ為ス主義ニ屬セス譬ヘハ管財人中ノ一名ノミニ對スル訴訟ハ

他ノ諸管財人ノ期滿得免ヲ停止スヘカラス又總員ニ對セサル訴訟ハ唯其訴訟ニ係ル者ノ利息ヲ停止スルニ過キス○是吾輩ノ撰取スル所見ナリ

最モ主任判事ハ時宜ニ由リテハ亡産管財人中ノ一名若クハ數名ニ特別ノ許可ヲ與ヘ一箇ニ處分ヲ為スヲ得セシムルコトアリ○然ルトキハ許可ヲ得タル管財人一名若クハ數名ハ其處分ノ責ニ任スヘシ(書式第百四十七号ヲ參看スベシ)

第四百六十八條○亡産管財人ハ授任ノ際未タ封印貼附セラレザルトキハ治安判事ニ之ヲ為スコトヲ請求スベシ（書式第百四十八号）

第四百六十九条第四百七十條及ヒ第四百七十一條○主任判事ハ亡産管財人ノ請求ニ依リテ左ノ諸物件ニ印封ヲ為スヲ須ヒサル意ヲ宣告シ又ハ既ニ印封ヲ為シタル時ハ其印封ヲ除去ス可キコトヲ宣告スルヲ得可シ

第一亡産人及ヒ其家族ニ必要ナル衣服家財什器但シ此等ノ物件ハ其目録ヲ管財人ヨリ主任判事ニ出シ主任判事ハ之ヲ亡産人ニ交附スルコトヲ許ス

第二速カニ腐敗ス可ク又ハ劣悪ニ至ルヘキヘキ物件又ハ保存スルニ許多ノ入費ヲ要スル物件譬ヘハ禽獣乗馬若シクハ亡産ノ為ニ停止セラレタル製造所ノ用馬ノ如キ是レナリ

第三商業ヲ施行スルニ要用ナル物件但シ商業ヲ停ムルトキハ債主ノ損害ヲ招キクヘキ場

第四百六十八條○亡産管財人ハ授任ノ際未タ封印貼附セラレザルトキハ治安判事ニ之ヲ為スコトヲ請求スベシ（書式第百四十八号）

第四百六十九条第四百七十條及ヒ第四百七十一條○主任判事ハ亡産管財人ノ請求ニ依リテ左ノ諸物件ニ印封ヲ為スヲ須ヒサル意ヲ宣告シ又ハ既ニ印封ヲ為シタル時ハ其印封ヲ除去ス可キコトヲ宣告スルヿヲ得可シ

第一亡産人及ヒ其家族ニ必要ナル衣服家財什器但シ此等ノ物件ハ其目録ヲ管財人ヨリ生任判事ニ出シ主任判事ハ之ヲ亡産人ニ交附スルコトヲ許ス

第二速カニ腐敗ス可ク又ハ劣悪ニ至ルヘキヘキ物件又ハ保存スルニ許多ノ入費ヲ要スル物件譬ヘハ禽獸乗馬若シクハ亡産ノ為ニ停止セラレタル製造所ノ用馬ノ如キ是レナリ

第三商業ヲ施行スルニ要用ナル物件但シ商業ヲ停ムルトキハ債主ノ損害ヲ招キクヘキ場

合ニ限ル（書式第百四十九号第百五十号及ヒ第百五十二号）

然ル後第二項第三項ニ記シタル物件ハ治安判事ノ面前ニテ管戝人其目録ヲ作リ其評價ヲ附記シテ判事ハ其旨ヲ調書ニ記シ已レノ姓名ヲ手署スヘシ（書式第百五十一号）

亡産管戝人ハ主任判事ノ許可ヲ経テ腐敗スヘク又ハ劣悪ニ至ルヘキ物件又ハ保有スルニ許多ノ費用ヲ要スル物件ヲ賣却シ及ヒ亡産人ノ商業ヲ継續シテ行ハシムルヿヲ得ヘシ（書式第百五十三号及ヒ第百五十四号ヲ參見スヘシ）

左ニ掲列スル所ノ物件ハ印封ヲ除去スルコトアリ第一簿冊但シ治安判事簿冊ヲ撿閲シ其認印ヲ記シ且ツ簿冊ノ様式ヲ簡略ニ調書ニ登記セシ後之ヲ亡産管戝人ニ交付スヘシ第二日ヲ経スシテ金高ノ收取期限ニ至ル券書類又ハ他人ヲシテ金高ヲ償フノ約諾ヲ為サシムヘキ券書類又ハ其他總テ亡産人ノ權利ヲ保全スル處置ヲ為ス可キ券書類但シ治安判事其細目録ヲ記シテ其本書ヲ亡産管戝人ニ交付スヘシ而シテ

其細目録ハ之ヲ主任判事ニ致シ後日總目録中ニ挿載セシムルヲ得セシム

其他ノ物件ハ評價ヲ記シ認印ヲ記シ目録ヲ作リタル後チ之ヲ管賊人ニ交付スヘシ○管賊人ハ自己ノミノ擔當ニテ其請取書ヲ出スヘシ

此物件ヲ亡産管賊人ニ交付スルノ日的ハ必要ノ時日内ニ注意ヲ遲滯シ及ヒ注意ヲ為サヽルヨリシテ其物件ニ就テ紛紜ノ起ルコトヲ豫防スルニ過キス

亡産管賊人ハ亡産人ニ寄セタル書翰ヲ開封スルノ権利ヲ有スルノミナラス必ス其書簡ハ管賊人ノ手ヲ経由スルヲ要ス而シテ亡産人在席スルトキハ書簡開封ニ参會スルヲ得ヘシ○斯ノ如ク亡産人ニ寄セタル書簡ヲ管賊人ニ交付スルヿハ甚タ緊要ナリ何トナレハ貨幣ヲ書簡内ニ封シ込ムコトアリ又ハ亡産人ノ貸金及ヒ借高ニ関シ要用ナル探知ヲ得ルコトアルベシ

第四百七十四條○亡産セシ以後ハ亡産人ハ自己及ヒ家族ノ為ノニ其賊産中ヨリ養贍料ヲ受ルヲ得ヘシ○養贍料ノ額ハ管賊人ノ申告ニ依

リテ主任判事之ヲ定ム此事ニ付キ爭論起ルトキハ之ヲ裁判所ニ訴フルヲ得ヘシ(書式第百五十五号及ヒ第百五十六号ヲ參看スヘシ

第四百七十五条○管賊人ハ簿冊ヲ緘束決定スルヲ要ス正シク云ヘハ各種ノ貸借ヲ計算シ和筧不足ノ債額ヲ認定シ從前取引ヲ為セシ諸商人ノ各名ニ對スル亡産人ノ現況ヲ認定スルヲ要ス○管賊人ハ此處分ヲ為スニ就テ亡産人ヲ呼喚スルノ義務ヲ有ス○若シ亡産人管賊人ノ招キニ應セサルトキハ四十八時間ヲ限リ出席スヘキノ呼喚ヲ受クベシ(書式第百五十七号ヲ參看スヘシ)且ツ亡産人ハ宥免狀ヲ得タルト否トヲ問ハス主任判事ノ有効ト認ムル障碍ヲ指示セシトキハ代理人ヲ出ハコトヲ得ヘシ(書式第百五十八号ヲ參看スヘシ)

第四百七十六条○設令立法者ハ亡産人ニ計筧書ヲ差出スコトノ責任ヲ附セシト雖モ此責任ヲ完全セサルコトアルヘシ然ルトキハ管賊人ハ直ニ亡産人ノ簿冊書類及ヒ探知セシ所ニ從ヒ計筧書ヲ作リテ之ヲ商事裁判所ノ書記ニ差

出スヘシ

第四百七十七条○主任判事ハ計算書ノ編成ニ関スル諸件及ヒ亡産ノ原由情況ニ就テ亡産人及ヒ亡産人ノ番頭手代其他ノ者且ツ亡産人ノ婦妻及ヒ子孫タリトモ並ニ之ヲ提質調問スルヲ得ヘシ(書式第百六十二号及ヒ第百六十三号ヲ参看スヘシ)

然レトモ探知ヲ拾集スルコトヲ任シタル主任判事ハ出席ヲ肯ンセサル者ヲ勾引スルノ権ヲ有セス

第四百七十八條○負債人ノ死後ニ於テ亡産ヲ公告スルコトアリ又亡産公告ト計算書編成トノ間ニ亡産人死スルコトアルヘシ此二ツノ場合ニ在テハ寡婦息子(賊産継承人ナラストモ)及ヒ賊産継承人ハ計算書編成ノ事件ニ付テ本人ニ代テ自ラ出會シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得ヘシ

或ル論者等謂ヘラク法律ニ於テ寡婦息子及ヒ賊産継承人ハ凡テ自ラ計算書ヲ編成シ若クハ他人ヲシテ之ヲ編成セシムルヲ得ヘシト

註是レ則「デルヴアンクール」氏商法ノ舊律第四百七十五條ニ就テ見ル所ナリ蓋シ該條ハ新商法第四百七十八條ニ允當セル成規ヲ載セリ但シ新法ニ載スル死後ニ亡産ヲ公告スル塲合ニ関スル追加ハ此限ニ在ラズ

一ノ論者ノ説ニ此等ノ諸人ハ本人ニ代リテ計算書ニ関スル事件ニ付テ通知ヲ與フル為メニ出會シ若クハ代理人ヲ出スヲ得ヘシ斯ク商法第四百七十八条中ノ計算書編成ノ事件ニ付テノ数字ヲ解セサルヘカラス何トナレハ第四百

七十六條ノ成規ニ依テ計算書ハ獨リ管財人ノミ之ヲ編成スルヲ任スレハナリト吾輩ハ該説ヲ以テ是ト為セリ

又寡婦息子及ヒ財産継承人ハ凡テ亡産ニ関スル他ノ處分ニ付テ出會シ若クハ代理ヲ出スノ權利ヲ有ス

第二款印封ヲ除去スルコト及目録ノ事

第四百七十九条及ヒ第四百八十条○亡産管財人ハ就職ノ日ヨリ三日内ニ(就職前ニ封印ニ貼付セラレタルトキハ)若クハ封印貼付ノ日ヨリ

三日内ニ（若シ就職後ニ貼封ヲ為セシトキハ）（第四百六十八條）印封ヲ除去スルコトヲ請求シ亡産人ノ面前ニテ又ハ之ヲ呼出シ猶ホ出席セサルヽ上ニテ亡産人財産ノ目録ヲ編成スルヲ要ス（書式第百五十九号第百六十号及ヒ第百六十一号ヲ参看スヘシ）

註印封ヲ除去スルコトヲ請求シ及ヒ目録ヲ作ルニ任スル所ノ亡産管財人ハ何等ノ管財人ナルヤヲ問フ者アリ蓋シ語ヲ変ヘテ之ヲ言ヘハ第四百七十九条及ヒ第四百八十条ハ亡

産公布ノ宣告ニ依テ命セラレタル假定管財人ヲ指スヤ或ハ之ニ續ク所ノ確定管財人ヲ謂フ乎一體ノ論者ハ假定管財人ナリト認定セリ

第二款　印封ヲ除去スルヿ及ヒ目録ノ事

第四百七十九條及第四百八十條○亡產管財人ハ就職ノ日ヨリ三日以内ニ就職前ニ封印貼付セラレタルトキハ若クハ封印貼付ノ日ヨリ三日以内ニ若シ就職後ニ貼付ヲ爲セシトキハ第四百六十八條印封ヲ除去スルヿヲ請求シ亡產人ノ面前ニテ又ハ之ヲ呼出シ猶ホ出席セサル上ニテ亡產人財產ノ目録ヲ編成スルヲ要ス書式第百五十九號第百六十號及第百六十一號ヲ參看スベシ

註○印封ヲ除去スルヿヲ請求シ及ヒ目録ヲ作ルニ任スル所ノ亡產管財人ハ何等ノ管財人ナルヤヲ問フ者アリ蓋シ語ヲ變ヘテ之ヲ言ヘハ第四百七十九條及ヒ第四百八十條ハ亡產公布ノ宣告ニ依テ命セラレタル假定管財人ヲ指スヤ或ハ之ニ續ク所ノ確定管財人ヲ謂フ乎一體ノ論者ハ假定管財人ナリト認定セリ

管財人ハ亡產人ノ財產ノ印封ヲ取除ク順序ニ

従ヒ治安判事ノ面前ニテ其目録二通ヲ記シ一而シテ治安判事ハ毎日其業ノ終ル毎ニ其目録ニ姓名ヲ手署シ以テ私ニ之ヲ増減スルヲ防クヘシ右ノ目録一通ハ開封濟ノ後二十四時間ニ裁判所ノ書記局ニ納メ管係アル人ハ就テ之ヲ見ルヿヲ得又一通ハ管財人ノ手ニ保存ス

註○一法律ニ於テ費用ヲ省減スル為メ公証人ノ管係ヲ要セシメス

管財人ハ目録ヲ記シ又ハ物件ノ價直ヲ評スルニ付キ自ラ適當ト信スル人物ヲ擇ヒ助力セシ

ムルヲ得ヘシ○若シ印封ヲ貼付セシ際上文ニ述ヘタル如ク免除セシ物件アリテ既ニ假目録ニ登記シ品價ヲ付セシモノアレハ本目録ニ之ヲ檢査セシヿヲ記スヘシ

第四百八十一條○若シ商人死去ノ後亡產ヲ公告シ未タ財產ノ目録ヲ記セシヿナキ件ハ相續人ノ面前ニ於テ又ハ合法ノ召呼ヲ為シテ至ラサル上ニテ亡產ノ法律ヲ以テ定メタル法式ニ從ヒテ其目録ヲ記スヘシ

商法第四百八十條ヲ參看スヘシ

此法式ハ通常ノ法式ヨリ費用少キ

ヲ以テ債主ノ爲メニ設立セシモノナリ故ニ此法式ヲ擇ヒ用ルヲ可トス何トナレハ相續人ノ利益ハ債主ノ利益ノ後ニ在レバナリ

法律編輯ノ際ニ於テ某ノ論者ハ相續人幼年ナルトキハ公証人ノ管係セシ目録ヲ要スベシト主張セシ者アリト雖モ諸論者ハ亡産ノ際主ニ債主ノ利益ヲ見サルベカラスト答辨セリ

死後既ニ目録アル場合ニ在テハ此ヲ以テ亡産ノ目録ヲ記スル根據トナスベシ但シ之ヲ檢査スルハ此限ニ在ラス又亡産人亡産公告ノ後ニ

シテ目録編成ノ前ニ死去セシトキハ亦第四百八十條ニ掲クル法式ニ從ヒ相續人ノ面前ニ於テ又ハ之ヲ召シテ至ラサル上ニテ目録ヲ記スヘシ

第四百八十二條及第四百八十三條○我輩後ニ見ルベシ詐僞倒産ノ罪ヲ犯セシ亡産人ハ刑ニ處セラルヽヿヲ此犯罪ノ探索及ヒ審定ヲ容易ニスル爲メニ法律ニ於テ管財人任職ノ日又ハ假定管財人眞ノ管財人トナリタル日ヨリ十五日間ニ亡産ノ外貌其最要理由情況及ヒ其種類

ヲ撮記セル覺書ヲ主任判事ニ呈スルヲ要ス〔一〕

書式第百六十四號ヲ見ルヘシ

○主任判事ハ直チニ自己ノ意見ヲ附記シテ此覺書ヲ皇帝ノ檢事ニ送致スルヿヲ要ス〔書式第百六十五號ヲ參看スベシ〕若シ主任判事定期内ニ其覺書ヲ受ケ取ラサルトキハ其遲延ノ旨ヲ檢事ニ告知シ且其原由ヲ指示スベシ

註○〔一〕新タニ管財人ヲ命シ又ハ假管財人ヲ眞管財人ト爲シテ設ケタル第一ノ管財局ヨリ唯一通ノ覺書ヲ呈スルヲ要スルノミ

四

檢事局ノ官吏ハ右ノ報告ヲ待タスシテ亡產人ノ住所ニ至リ目錄編成ノ席ニ參シ及ヒ何時ヲ問ハス總テ亡產ニ管係セル條約書帳簿又ハ書類ノ通知ヲ請求スルヲ得ベシ

第三款　商賣品及ヒ動產ヲ賣却スルヿ并ニ亡產人ノ得ベキ金高ヲ受取ル事

第四百八十四條及第四百八十六條○既ニ目錄ヲ編成スル後ハ亡產人ノ商賣品金銀貸金證書簿冊書類動產什器ヲ管財人ニ引渡スベシ管財人ハ目錄ノ末ニ此等ノ諸物件ヲ預リタル旨ヲ

附記スヘシ管財人ハ動産即チ商品ノ賣却ヲ處分シ得ルト雖モ主任判事ノ許可ヲ得ルヲ要ス

判事ハ先ツ亡産人ニ質問シ又ハ之ヲ召テ至ラサル上ニテ管財人ノ申立ヲ許可スベシ

書式第百六十六號及第百六十七號ヲ參看スベシ

此賣却ノ要旨ハ亡産ノ支配ニ管スル費用ヲ辨償スルニ在リ而シテ賣却ヲ爲ストキハ必ス主任判事ノ許可ヲ要ス何トナレハ向後和約ノ成リタルトキ亡産人ノ商業ヲ保續シ得ベキ樣ニ成ルベク萬事處分ヲ爲シ置クヲ要スレバナリ

五

主任判事ハ賣却ヲ相對ニテ爲スカ第一又ハ官吏ノ目前ニテ競賣スルカ第二ヲ決ス若シ第二ノ場合ニ決スルトキハ如何ナル種類ノ官吏ヲ以テスルカヲ定ム

一但シ管財人ハ其官吏中ニテ我信用スル人物ヲ擇フヲ得ベシ

註○一此官吏ノ種類ヲ指示スル場合ニ在テハ主任判事ハ種々ノ公ケノ官吏ノ職務ヲ定ムル所ノ成規ニ從ハサルベカラス

千八百四十六年一月五日大審院ノ決議

且ツ讀者ハ第四百八十六條第一項ニ於テハ徒

ニ動産ヲ賣ルノ權利ヲ管財人ニ付與シ主任判事ハ不動産ヲ賣ルヲ許可スルノ權無キヿヲ注意スベシ

第四百八十五條○管財人ハ引續テ〔一〕主任判事ノ監督ヲ受ケ亡産人ノ貸高ヲ取集ル處分ヲ為ス吾輩既ニ謂ヘリ彼等ハ領収書ヲ付與スルノ性質ヲ有セリト〔商法第四百七十一條ヲ見ルベシ〕

註○〔一〕第四百八十五條ニ引續テノ字ヲ用ユルハ第四百七十一條ノ成規ヲ受ケタルモノナリ

第四百八十九條○賣品及ヒ返金ヨリ得タル金額ハ主任判事諸費用ニ必要ナリト認ムル金員ヲ扣除シ其殘額ハ管財人ヲシテ直チニ預金局ニ納メシムベシ〔書式第百七十三號ヲ參看スベシ〕

此方法ノ目的ハ管財人ノ亡産資金ヲ保有シテ舉息等ノ利ヲ私スルヲ防クナリ

管財人ハ金ヲ請取リタル日ヨリ三日以内ニ之ヲ預金局ニ納ムルヲ要ス若シ三日ヲ過クルトキハ其納メサル所ノ金額ノ利息ヲ拂ハサルベカ

ラズ

管財人ノ預金局ニ納メタル金高及ヒ其他總テ亡産人ノ計算ノ爲メニ人ヨリ當局ニ預ケタル金高ハ主任判事ノ命令ヲ以テ管財人之ヲ受出スヿヲ得〔書式第百七十四號ヲ見ルベシ〕○然レトモ抗拒ヲ爲スモノアルトキハ管財人ハ先ツ其取消狀ヲ得ルヲ要ス

且ツ又主任判事ハ預金局ニ命シ管財人ノ調査主任判事ノ檢印ヲ具シタル分派金帳ヲ按シテ直チニ金ヲ亡産ノ債主等ニ拂渡サシムルヲ得

ベシ〔書式第百七十五號ヲ見ルベシ〕

第四百八十七條○管財人ハ主任判事ノ許可ヲ受ケ及ヒ亡産人ヲ召シ又ハ召テ至ラサル上ニテ亡産人ノ財産合部ニ關スル爭論ニ付キ和解ヲ爲スヿヲ得ベシ〔一但シ不動産所有ノ權利ニ管スル爭ト雖モ管財人亦之ヲ和解スルヲ得ベシ〔書式第百六十八號及第百六十九號ヲ參看スベシ〕

註○〔一〕亡産人不動産ノ權利ニ關スル和解允可ノ事ニ付呼出サレタルニ於テハ其出席セシト否トニ拘ラス和解決議ノ席ニ參會セ

サリシヲ理由トシテ後日和解ノ取消ノ請求スルヲ得ス（千八百四十七年二月十四日破毀院決議）

此和解ノ權利ヲ管財人ニ附與シタル目的ハ和約ノ評議ヲ簡明ニスルニ在リ何トナレハ此方法ニ依テ各債主ハ貸額及ヒ借額ノ詳明ナラスシテ爭フヘキ部分ヲ承知スヘシ

若シ其和解ノ物件三百「フランク」以上ノ價額ニ關シタル時又ハ其價額不定ナル時ハ動產ニ付テハ商事裁判所（書式第百七十號ヲ見ルヘシ）不動產ニ付テハ民事裁判所ヨリ管財人ノ和解證書ヲ允許セシ上ニ非サレバ和解ノ効ナカルベシ

是即チ商法第四百八十七條ノ成規ナリ然レトモ此事ニ付テハ「ブラヴァールド」氏曰ク立法者ハ實際最モ多端ナル場合ニ據テ法ヲ設ケタリト知言ナル哉動產ニ管スル爭ニ付テハ多クハ商事裁判所ノ權内ニ在リ又不動產ニ關スル爭ニ付テハ民事裁判所ノ擔當スヘキヿ最モ多シ然レトモ不動產ニ關スル爭ト雖モ商事裁判所ノ擔當スヘキヿアリ譬ヘバ其爭ハ支償謝絶後ニ買受人之ヲ承知シテ賣買ヲ為セシトテ不動產ノ賣買ヲ破毀セントスル事ニ在リトセン然ルトキ

ハ和解ヲ允可スルノ權ハ商事裁判所ニ屬スベシ又之ニ反シ全ク動産ニ関スル爭ニシテ民事裁判所ノ權限ニ屬スルヿアリ〔譬ヘバ其爭動産相續ノ權利ニ関スルヿノ如キモノ〕然ルヿハ民事裁判所ニ和解ノ允可ヲ請求セサル可カラズ

註○ブラヴァールド氏ノ商法論ノ第三卷ノ三百三十四葉及ヒ其次ヲ參看スベシ

允可ヲ爲スヿハ亡産人ヲ呼出シ其事ヲ通ス〔書式第百七十一號ヲ見ルベシ〕而シテ如何ナル場合ニ在テモ亡産人ハ之ヲ抗爭スルヲ得ベシ〔書式第百七十二號ヲ見ルベシ〕

註○巴里裁判院ノ判決ニ管財人ノ規則ニ遵テ承諾セラレタル和解ノ允可願ニハ亡産ノ債主等抗爭ノ目的ヲ以テ立入ルヿヲ得ストセリ〔千八百五十五年十二月十二日ノ決議〕

不動産ニ関スル和解ハ亡産人ノ抗爭ヲ以テ之ヲ防止スルニ十分ナリ○管財人ニ付與セシ和解ノ權利ヲ此ノ如ク減縮スル所以ハ未タ和約ニ先タチタル亡産ノ時機ニ在レハナリ且ツ論者謂ヘラク亡産人ノ商務ヲ擔任スルヲ許サル

ヽヤ否ヤノ判明セサル内ニ其不動産所有ノ權ヲ剥奪ス可カラスト

註○我輩ハ見ルヘシ和約調ハサルヤ即チ連合ヲ爲セシヤハ不動産ニ關スル和解ト雖モ亡産人ノ故障ヲ申立ルニ拘ラス管財人之ヲ爲スヲ得ヘキヿヲ〔商法第五百三十五條ヲ見ルベシ〕

管財人ハ法ニ依テ許サレタル上ニ非サレバ和解ニ關係スルヲ得ス

又管財人ハ判言ヲ下スヿヲ得ス

註○管財人ハ和解ニ付テ指示セラレタル成規ニ依ルニ非サレハ判言ヲ爲スヘカラス然ラサレハ其効ナカルベシ〔巴里裁判院千八百四十四年二月二十日ノ決議〕○ナンシー裁判院ノ決議ニ管財人ハ其職ヲ以テ爲セシ訴訟ヲ勝手ニ抛棄スルヲ得ス〔千八百三十九年八月十三日ノ決議〕然レトモ一般ノ訴訟事件ヲ抛棄スルヲ得ベシ譬ヘハ裁判申渡ノ無効ニ屬スベキ者ハ更ニ他ノ裁判申渡ヲ受クル爲メニ訴訟スルヿヲ抛棄シ得ベシ蓋シ之ヲ止ム

ルニ際シ未タ其權利ヲ全ク抛棄セス已決ノ訴訟ニ全ク服セサルヲ陳述シ置クニ於テハ尤モ可ナリ

千八百四十三年六月二十七日訴訟局ノ決議

第四百八十八條○亡産人拘留ヲ免カレ又ハ保釋狀ヲ受ケ得タルトキハ管財人ハ其處分ヲ明カニシ且ツ容易ニセンカ爲メニ亡産人ヲ用フルヲ得ベシ○其仕事ノ給料ハ主任判事之ヲ定ムベシ

第四款　亡産人ノ權利ヲ保護スル處置

第四百九十條○管財人ハ其職ニ任スルノ日ヨリ速カニ亡産人ノ負債主ニ對スル權利ヲ保護スルニ必要ナル處置ヲ爲サヽル可カラス譬ヘハ裁判所ニ願出テ期滿得免ヲ停止スル丨ノ如キ是レナリ

我輩ハ既ニ管財人ノ亡産人所有ノ貸金證書ノ期限ニ達セシモノヽ返金ヲ請求シ此成規ニ準シテ取計濟ノ證書ニ對シ返金請取書ヲ差出スヲ要スル丨ヲ見タリ

書入質ハ登記ヲ以テ其効力ヲ有スル者ニ付キ

管財人ハ亡産人所有ノ書入質未タ登記セサル者アレハ之ヲ登記セシムルヲ要ス

登記ハ總債主ノ名代トシテ管財人之ヲ為ス但シ管財人ハ其受任ヲ證スル書記官ノ保證書ヲ貸金計算書ニ添ヘテ差出スベシ

六號ヲ見ルベシ

又管財人ハ諸債主ニ代リテ其知ル所ノ亡産人ノ不動産ヲ登記スルヿヲ要ス此登記ヲ為スニハ亡産ノ成立スルヲ掲ケ管財人ノ任ヲ受ケタル月日ヲ記セル通常ノ計算書ヲ以テスルニ止ル

書式第百七十七號ヲ參看スベシ

一タヒ登記セラレシ以上ハ亡産人ト嘗テ直接ニ條約ヲ結ハサル諸人ニ對シ其亡産公告申渡後ニ登記ヲ為サントスル者ニ向ヒ抗拒シ得ヘキ書入質ヲ財産合部ノ債主等ニ附與スルヿヲ要用トセリ

然レトモ或ル論者ノ説ニ曰ク法律ニ於テ此ニ債主全員ニ付與セシ所ノ書入質ハ眞正ノ書入質ニ非ス此質物ハ契約上ノモノニモ非ス裁判上ノモノニモ非ス又合法ノモノニモ非ス管財人

ノ爲セシ登記ハ亡產人ノ不自由ヲ知ラシムル爲メニ商法ニ於テ織成セル他ノ方法ニ附加シタル一ノ公報ノ方法タルニ過キス商法第五百十七條ニ於テ各債主ニ質物ヲ保存スル爲メノ登記（允可ノ判決ノ登記）ヲ陳セリ故ニ管財人ノ第四百九十條ニ準シテ登記セシ質物ニ法律ニ於テ眞正ノ質物ノ性質ヲ附セス此登記ハ全ク不用ナルベシ而シテ若シ質物已ニ諸債主ノ名ヲ以テ登記セラレタル・キハ各債主ヲ別ツ爲メニ通常ノ記入ニ改ムルニ如カスト

註（ポンピ氏ノ民法書中第二千百四十六條ノ解及ヒブラヴァールド氏ノ商法論第五卷ノ三百九葉及ヒ其次ヲ見ルベシ

我輩ハ右ニ反對ノ論旨ヲ可ナリトス書入質ハ約束ニモ裁判ニモ合法ニモ非スト謂ヘル論理ヲ避ケサル可カラス第四百九十條ニ依テ付與セラレタル書入質ハ法ニ依テ許可セラレタルキハ假令他ノ合法質物ニ屬セラレタル特權ヲ有セサルキト雖モ其合法タルヿハ明瞭ナリ且第五百十七條ニ詳記シテ和約書ノ允可ハ亡產

人ノ不動産ニ付キ第四百九十條第三項ニ準シテ登記セシ質物ヲ各債主ニ保存セシムト曰フニ非スヤ且ツ我輩上文ニ此登記ノ要用タル所以ヲ掲示セシ一アリ

又大審院ノ最近ノ裁判事例モ上項ニ同シ

千八百五十八年十二月二十九日訴訟局ノ決議

註○裁判事例ヲ以テ左ノ條件ヲ決セリ第一死亡人ノ債主并財産相續人等六个月内ニ拿破倫法典第二千百十一條ニ準シテ登記ヲ爲サスシテ其以前ニ若シ管財人其登記ヲ爲セシ時ハ債主并相續人ハ遺物ノ不動産ニ付テ獨リ亡産セシ相續人ノ債主ニ利益ヲ占メラルヘシ語ヲ易ヘテ之ヲ言ヘハ第四百九十條ニ準シテ爲セシ登記ハ拿破倫法典第二千百十三條ニ依テ爲セシ登記ヲ消滅セシム第二連合ヲ解散セシ場合ニ際シ第四百九十條ニ依テ爲セシ登記ハ各種ノ債主ヲシテ更ニ判決ヲ受ルヿ及ヒ各自ニ負債人現有及ヒ未來ノ財産ニ付キ新タニ登記ヲ爲スヿノ要用ヲ免セシム

千八百五十八年十二月二十九日ノ

大審院ノ決議及ヒ千八百六十二年八月五日ジジョン裁判院ノ決議ヲ見ルベシ

第五百十七條ニ掲クル允可申渡ノ登記ノ事ニ關セシ駁議ニ付テハ吾輩ハ該條下ニ於テ答辨スベシ

註○我輩ノ千八百五十九年十二月ノ法律批評誌中ニ公告セシ條項ヲ見ルベシ

第五款　貸金ノ檢査

諸債主ノ貸金ヲ檢査スルハ亡産ノ處分中ニ於テ最モ至要ナルヿニシテ其目的ハ債主ト稱シ來ル者ノ權理ヲ檢査シ之ヲ帳簿ニ登記スルニ在リ

凡ソ亡産人ノ債主ト稱シ來ル者ハ其貸金假令商賣上ニ關セサルモノト雖モ一般ニ檢査セザルヲ得ズ

然レヒ質物又ハ特權ヲ有スト稱スル債主ハ吾輩ノ後ニ陳述スベキ檢査ト明言トノ二層ノ成規ヲ遵守スルニ及ハサルヤ否ノ問題ハ論者ノ喋々爭論スル所ナリブラヴァード氏ノ說ニ曰ク不動産ノ質物ヲ有シ又ハ不動産上ニ特權ヲ有

スル債主ハ此二層ノ成規ヲ遵守スルニ及バス何トナレバ談債主ハ全ク亡産ノ外ニ在リテ之ニ關係セザレバナリ然レモ動産上ニ一般ノ特權ヲ有スル債主ハ談成規ヲ遵守セサルヲ得ズ何トナレバ其質物ハ質入ノ如ク堅確ナラズ若シ負債人之ヲ他ニ責與セシキハ忽チ空券トナルヲ以テ斯ノ如キ債主ハ亡産外ニ在ルト見做スヨリハ寧ロ之ヲ亡産内ニ在ルモノト見做サヾルヲ得ザレバナリト

又他説ニハ一般ノ特權ヲ有スル債主ヲ除クノ外質物又ハ格別ノ特權ヲ有スル債主ト雖モ檢査及ヒ認定ノ成規ニ遵守セサルベカラスト其言ニ曰ク質物又ハ特權ヲ有スルノ債主タルヿヲ證明セシ者ノミ獨リ亡産外ニ在リトス然ルニ此證明ハ第四百九十一條及其次條ニ依ルニ非サレバ之ヲ爲スヲ得ザルベシ〔一〕ト是レ則チ吾輩カ第一次ノ刊行書中ニ論述セシ主義ト同一ナリ抑亡産之篇第五章第五款即チ貸金檢査ノ方法ヲ指示セル各條中ニハ總體ノ債主ノヿヲ謂ヘルモノナリ而シテ法律ニ差別ヲ爲サヾ

ルモノニ付テ論者ノ勝手ニ差別ヲ爲スハ其當ヲ得ザルモノナリ〔千八百六十年三月十九日ノボルドー府裁判院判決ノ理由書ヲ參看スベシ〕

二

註○〔一〕里溫府裁判院ノ判決ニ亡產人ノ借宅ヲ牧飾セル動產上ニ店主ノ特權ヲ有セル貸金ハ檢査及ヒ明言ノ成規ニ準據スルニ及ハズトセリ〔千八百四十六年三月十七日ノ決定〕

〔二〕千八百三十九年二月二十七日ノ亞密安府裁判院ノ判決ヲ見ルベシ○グレノーブル裁判院ノ判決ニ亡產人ヨリ未タ品物ノ代價ヲ受取ラサル賣主ハ其貸金ノ檢査及ヒ明言ヲ經由セザル內ハ亡產人ニ對シテ破約ノ訴訟ヲ爲スヲ得ズトセリ〔千八百六十年三月十九日ノ決定〕

然レトモ數度ノ判決ニ特權又ハ質物ヲ有スル債主ハ其貸金ノ抵當タル不動產ニ付キ負債者ノ所有權ヲ剝奪スルノ處分ヲ爲スヲ以前ニ於テハ必シモ檢査明言ノ成規ヲ遵守スルニ及ハス且右ノ處分前後ニ拘ハラズ他ノ無質債主一統ニ

附屬セル資金ノ分配ニ干預センヿヲ望ムヿヲ限リ右ノ成規ニ準據スベキモノトセリ

檢査ノ處分ヲ簡捷ニセンカ為ニ亡産公布ノ宣告當日ヨリ諸債主ハ裁判所ノ書記官ニ所持ノ証書ヲ交付スルヲ得但シ証券罫紙ニ其請求スル所ノ金額ヲ記載シ計算ヲ明白ニシ之ヲ證書ニ添ヘテ差出スヲ要ス〔書式第百七十八號ヲ參看スベシ〕書記官ハ之ヲ帳簿ニ登記シ且領収證ヲ渡スベシ〔書式第百七十九號ヲ參看スベシ〕而シテ書記官ハ檢査ノ取調ヲ始メシ日ヨリ五箇年ノ間委託ヲ受ケタル證書ニ付テ責任ヲ有スルモノトス

管財人ノ再任又ハ交代ヲ定メシ日時ニ至リ仍ホ證書ヲ差出サヾル債主アルヿハ新聞紙并ニ書記官ノ書狀ヲ以テ該債主ニ報シテ曰フ新聞紙上掲載ノ日ヨリ二十日ヲ限リ本人又ハ代理人ヲ以テ所有ノ証書及ヒ請求ノ金額ヲ記セシ計算書ヲ管財人又ハ書記官ニ送致シ其領收書ヲ受取ルベシト〔書式第百八十號及第百八十一號ヲ參看スベシ〕若シ債主ノ居所破亡産ノ審理ヲ

擔任セル裁判所所在地外ニ在ル者ハ其證書ヲ差出スニ就テハ佛國内地ハ二十日ノ定期外ニ裁判所所在地ト其居住地トノ距離五「ミリアメートル」（十二里二十六「ヨト」ニ一日ノ延期ヲ有スル）ヲ得○佛國大陸ノ外ニ住スル債主ハ訴訟法第七十三條ニ定ムル延期ヲ有スルヲ得ベシ

第四百九十三條○檢査ハ佛國ノ内地ニ居住セル債主ニ許可セシ日限後三日ヲ經テ之ヲ開キ佛國大陸ノ外ニ居住セル債主ニ許可セル日限ノ滿期ヲ待タス

檢査ハ主任判事ノ豫示セル場所及ヒ日時ニ於テ成ル可ク鄭重ノ注意ヲ為シテ之ヲ行フモノトス第四百九十二條ニ掲クル報告書中ニ此場所并日時ヲ記スベシ

債主ノ不參ハ本人ノ為ニ許多ナル不都合ヲ生スルカ故ニ不參ノ債主ヘハ再ヒ新聞紙及ヒ書記官ノ書狀ヲ以テ檢査開始ノ日ヲ報知スヘシ

書式第百八十二號及第百八十三號ヲ參看スベシ

檢査ハ主任判事ノ面前ニテ管財人ト債主又ハ

其代理人ト相對シテ之ヲ施行シ主任判事ハ其調書ヲ編成ス又管財人ノ貸金ノ檢査ハ主任判事自ラ之ヲ行フ〔書式第百八十五號ヲ參看スヘシ〕

第四百九十四條○凡ソ貸金檢査濟ミノ債主又ハ亡産人計算積書ニ登記セラレタル債主ハ他ノ各債主ノ貸金ノ檢査ニ參會シテ之ヲ辨駁スルヲ得ベシ〔一〕亡産人モ亦同一ノ權利ヲ有ス〔書式第百八十六號ヲ參看スベシ〕

註○〔一〕亞密安裁判院ノ判決ニ凡ソ債主タル者亡産人ノ借金額中ニ詐偽無實ノ貸金ヲ記入セリト認ムルトキハ管財人ノ關係ヲ要セスシテ各自ニ無實ノ債主ニ對シ訴訟ヲ起シテ其無効ヲ請求スルノ權利ヲ有ストセリ

第四百九十六條○債主ハ法律ノ許ス所ノ證據ノ方法ニ依テ語ヲ易ヘテ之ヲ言ヘハ證據ニ關スル概則ニ準シテ各自ノ貸金ヲ証定スベシ

又一方ニ在テハ主任判事ハ他人ノ請求ヲ待タズシテ其職務上ヨリスルトモ債主ニ帳簿ノ呈進ヲ命シ若クハ債主所在地ヲ管スル判事ニ債

主ノ帳簿ノ抜萃ヲ請求スルヲ得ベシ

〔書式第百八十七號ヲ參看スベシ〕

○設令十分ニ規則ニ合セシ明瞭確實ト見ユル證書ヲ以テ貸金ヲ保証セシヤト雖モ帳簿ノ呈進ヲ請求スルヲ得ベシ何トナレハ證書ニ付テ確示セル條約義務中ニ故意ニ前文ヲ改更セシモノアルヲ帳簿ヨリ發見スルヿアレバナリ

第四百九十五條○檢査ノ調書ニ債主及ヒ其代理人ノ居住地ヲ登記スル又後來他ノ債主カ該債主ノ貸金ヲ討論セント望ムヤニ當テ自己ノ證書ヲ隱匿スルヲ得ザラシムル爲ニ調書中ニ證書ノ要領文字ノ增補刪落并ニ空格ノ有無ヲ登記スル且又貸金ヲ認可若クハ除却セシヿヲ記ス

〔書式第百八十四號ヲ參看スベシ〕

〔第四百九十七條○〕

貸金ヲ認可セシヤハ調書中ニ證書所有主ハ請求ノ金額ノ合法債主ト認可セラレシ旨ヲ記スヿ而シテ管財人ハ其證書ニ署名シ左ノ文ヲ載ス

「何年何月何日金高何圓何某ノ亡産ノ借金中ニ認可セラレタリ」主任判事之レニ加印ス

註○檢査及ヒ認定（明言）ノ上亡産ノ借金中ニ認可

セラレタル貸金ト雖モ若シ誤謬ヲ發見スル
ヰハ何時モ之ヲ辨駁スルヲ得ベシ〔里溫裁判
院千八百四十九年十一月二十一日ノ判決及
ヒ「ニーム」裁判院同年同月二十九日ノ判決〕
各債主ハ檢査ノ後直チニ又ハ八日以内ニ主任
判事ノ面前ニ於テ其貸金ノ眞正ナル狀ヲ明言
スルヲ要ス〔書式第百八十八號ヲ參看スベシ〕
蓋シ立法者ノ意ハ既ニ認可セシ證書ノ眞正ナ
ル狀ヲ裁判官ニ就テ明言スルヿヲ債主ニ要求
シテ一層債主ノ犯罪ノ思念詐偽ノ處置ヲ為ス

ヲ豫防スルニ在リキ
然レモ法律ニ於テ誓盟ヲ為シテ明言スルヲ要
スルト誓盟ヲ為スニ及ハサルトヲ知ルノ論點
ニ至テハ著述家往々意見ヲ異ニセリ
吾輩考フルニ法律ニ於テ貸金明言ノ書式ヲ定
メザルカ故ニ債主ハ誓盟ヲ為スヿナク唯ニ尋
常簡易ノ明言ヲ為スヲ以テ足レリトス
他ノ論者ハ謂ヘラク債主ノ明言ハ誓盟ヲ附シ
テ之ヲ為サヾルベカラス
明言ハ代理人ヲ以テ之ヲ為スヲ得ベシ是事ハ

法律編成ノ際既ニ認許セラレタル一點ナリ

或人問テ曰ク債主若シ八日以内ニ明言ヲ爲サヾルトキハ債主タルノ權利ヲ失フヤ否ヤ

第一說○或ハ曰ク法律ノ文字ハ大ニ命令ノ語意ナリ即チ明言ハ八日ヲ限リ之ヲ爲スヲ要スト謂ヘリ因テ念フニ病氣若クハ己ムヲ得ザルノ事情アルニ非スシテ八日以内ニ明言ヲ爲サザリシ者ハ債主ノ權利ヲ失フベシ

第二說○法律ニ權利消滅ノ1ヲ載セス故ニ吾輩ハ取調ノ全ク終ラサル内ハ何時ニテモ明言

ヲ爲スヲ得ベキモノト信スルナリ

檢査及ヒ明言ヲ爲セシ後チ亡產ノ借金中ニ其貸金ヲ認許セシ1ニ付テ請求シ得ル所ノ破毀ノ理由ハ何等ノ條件ナルヤヲ知ルノ問題ハ論者ノ異議シテ己マサル所ナリ

第一說○亡產ノ借金中ニ認許セラレタル貸金ハ其根據タル證書條約書等ノ鑒定中ニ事實若クハ權利ヲ誤認セシヲ理由トシテ之ヲ辨駁スルヲ得ズ然レモ唯確實眞正ノ檢査ヲ爲スヲ妨ケシ詐僞隱匿又ハ己ムヲ得ザル事故アリシヲ

理由トシテ之ヲ辨駁スルヲ得ベキノミ

註○然レトモ大審院ノ裁判事例ニ據ルニ若シ管財人撿査ノ取調ニ付テ豫メ其精審ナラサルヲ恐レテ其由ヲ陳告シ置キタル場合ニ在テハ本項ノ限ニ在ラズ〔千八百三十四年六月十九日ノ判決〕

第二説○吾輩考フルニ詐偽犯律誤謬ノ三件ニ付テ決シテ區別ヲ立ツベカラズ若シ詐偽若ク ハ犯律ヲ以テ破毀ノ理由トナストキハ誤謬モ亦破毀ノ理由ト爲サヾルヲ得ズ何トナレハ法律ニ之ヲ同位ニ掲列セシヲ以テナリ〔拿破倫法典第千百九條〕若シ認許ノ際誤謬アルトキハ爲メニ承諾ヲ破却スベシ從テ認許ヲ破却スルノ理ナリ

第四百九十八條第四百九十九條及第五百條○若シ貸金ヲ討論スル者アルトキハ先ツ調書ニ就テ之ヲ吟味シ而シテ主任判事ハ成ル可ク速カニ原被兩造ヲシテ呼出狀ヲ待タスシテ主任裁判所ニ出頭セシム蓋シ爭論ニ係ル貸金ノ眞否ヲ判決スルハ專ラ主任裁判所ノ任スル所ナレ

バナリ

爭論ハ商事又ハ民事ニ就テ起ルヿアルベシ甲ノ場合ニ在テハ商事裁判所之ヲ擔當シ乙ノ場合ニ在テハ民事裁判所之ヲ擔當ス商法第四百九十九條及第五百條ヲ參看スベシ

若シ爭論ノ件重ニ亡產ヲ擔任セシ裁判所ニ送致セラレ更ニ檢察ヲ要スルトキハ該裁判所ハ之ヲ主任判事ニ命シ且ツ何人ニテモ該件ヲ証明シ得ベキモノヲ呼出スベキヲ同判事ニ命スルヲ得ベシ○裁判所ハ主任判事ノ報告書ニ據テ

判決ヲ下ス書式第百八十九號ヲ參看スベシ

既ニ檢査處分ヲ了レハ裁判所ハ直チニ和約（コンコルダー）ノヿヲ評議セシムル爲メニ諸債主ヲ招集スルヿヲ吾輩是レヨリ説明セントス抑貸金ノ爭論ノ爲ニ屢招集ノ延滯ヲ生シ或ハ招集ノ期前ニ貸金爭論ノ局ヲ結ハザルヿアリ看ヨ立法者ハ如何ナル方法ヲ用ヒテ斯ノ如キ困難ヲ解除セシカヲ蓋シ一ノ爭論ヲ亡產處分擔任ノ裁判所ニ提出セシトキハ該裁判所ハ其事情ニ因リ或ハ和約調成ニ就テノ集會ヲ延期シ又ハ爭論ニ關セ

ス直ニ開會ヲ命スルヲ得ベシ〔書式第百九十號ヲ參看スベシ〕

大抵爭論ノ有無ニ關セズ集會ヲ命スルヿ多シ然レモ此場合ニ在テハ裁判所ハ爭論ニ係ル證書ノ所有主ヲシテ假リニ評議中間ニ入ラシムルヿヲ得尤モ談債主ノ權利ヲ有スベキ金額ヲ假定スベシ〔書式第百九十一號ヲ參看スベシ〕

假令爭論ハ民事裁判所ニ送致セシヿト雖モ集會ノ延期若クハ爭論ニ關セズ開會ヲ命スルハ必ス亡產處分ヲ擔任セシ商事裁判所ノ權内ニ

在リ○然レモ若シ談裁判所ハ爭論ニ關セズ開會ヲ命セシヿハ爭論ヲ受理セシ民事裁判所ハ管財人ヨリ爭論ヲ受クル債主ニ對シテ請求スル條件ニ依テ別ニ訴訟ヲ要スルヿナク爭論中ノ貸金ヲ假認スベキヤ然ルヿハ幾多ノ金額ヲ假認スベキヤヲ決ス○亡產ヲ擔任セシ裁判所ハ民事裁判所ノ判決スベキ貸金ニ就テ異論ヲ爲スヲ得ス

若シ爭論ニ係ル貸金刑事若クハ詿違罪ノ審理ニ屬スルヿニ在テモ亡產處分擔任ノ裁判所ハ

諸債主ノ集會ヲ延期若クハ命令スルノ權ヲ有ス然レトモ集會ヲ命セシトキハ右ノ貸金ヲ假認スルヲ得ス而シテ爭論ニ係ル債主ハ主任裁判所ノ審理ヲ結局セサル内ハ毫モ亡産ノ處分ニ干預スルヲ得ズ

第五百一條○若シ貸金ハ既ニ認定セラレ其爭論ノ點ハ唯之ヲ保證スル所ノ特權又ハ質物上ニ存在スルトキハ談債主ハ裁判官ノ關係ヲ待タス勿論法律ニ於テ通常債主ト同一ニ亡産ノ評議ニ加ハルヿヲ得

亡産ノ處分ヲ速成スルタ為ニ佛國内地ニ居住スル諸債主ノ貸金ノ撿査及ヒ明言ノ日限ニ滿ルトキハ外國在留ノ債主ヲ待タス和約ノ調成〔一〕ヲ開キ其他亡産ノ處分ヲ為スベシ然レトモ配當金中ニ外國在留債主ノ部分ヲ遺留スルヲ要ス此事ハ吾輩追テ之ヲ説明スベシ〔第五百六十七條及第五百六十八條ヲ參看スベシ〕

註○〔一〕諸債主ノ和約ヲ評議スル為メニ集會セシ日ニ於テ貸金ノ明言ヲ為スハ毫モ妨ケナシ唯談集會前ニ撿査ノ調書ヲ結了スルヲ

得ルヲ以テ足レリトス　千八百五十八年七月二十日訴訟局ノ決議

法律ニ許可スル所ノ期限内ニ檢査及ヒ明言ヲ請求セザリシ債主アルトキハ其知レタルト否トニ拘ラズ配當金ヲ得ベキ人員中ニ加算セス然レトモ訣人ニ在テハ自費ヲ以テ配當ヲ辨駁スルヲ得ベシ然レトモ主任判事ノ命令セシ配當ハ確定ノモノタルヲ以テ之レカ為ニ配當ヲ中止スルヲ得ズ唯辨駁ヲ為セシ上ハ將來為スベキ第二回ノ配當金ヲ之ニ付與スベシ其金額ハ裁判所ニ於テ假定シ訣訴訟ノ判決マテ之ヲ保存スベシ且立法者ハ成ル可クハ訣債主ノ利益モ他ノ第一回ノ配當ヲ受ケタル債主ト均一ナラシヿヲ冀望シ其第一回ノ配當ニ於テ受クベキ金額ヲ未タ配當セサル貸額中ヨリ先ツ引去ルヿヲ許可セリ是ニ因テ配當スベキ殘金額ヲ以テ其割前ヲ充タスニ足ラザル場合ヲ除クノ外決シテ損害ヲ受クルノ憂ナシトス

期限ヲ後レタル債主ハ裁判所ヲ經由セズシテ直ニ管財人ニ訴狀ヲ出スベシ　書式第百九十二

號ヲ參看スベシ而シテ後チ商法裁判所ハ該訴ノ是非ヲ審判ス

第六章　和約（コンコルダー）并ニ連合（コンコルダー）ノ事

吾輩既ニ陳セリ佛國在留債主ノ檢査及ヒ明言ニ就テ定メタル期限ヲ過ルトキハ直チニ他ノ亡産處分ニ轉移シ第五百二條ヲ參看スベシ諸債主ハ評議ノ為メニ集會スト○是時ニ於テ債主等ニ二樣ノ行クベキ道アリ一ニハ或ル條約ヲ設ケ多クハ負債人ヨリ何月内ニ負債ノ全部若クハ一部分ヲ返辨スベキノ條約ヲ爲ステ負債人ニ其財産ノ管轄ヲ復シ自由ニ之ヲ支配スルヲ得セシムヲ是レ彼ノ和約ト稱スルモノナリ第五百七條及其次條ヲ參看スベシ一ニハ若シ亡産人ノ情願ヲ達セズ遂ニ和約ノ好結果ヲ得ザルトキハ債主ハ乃チ連合ノ場合ニ至ル第五百二十九條及其次條ヲ參看スベシ蓋シ總負連合シテ負債人ノ貸額ヲ決算シ該額ニ就テ成ル丈ケ利益ヲ分有スベシ

第一款　債主ノ徵召及ヒ集會

第五百四條○檢査及ヒ明言ノ期限ヲ過ルトキハ

主任判事ハ書記官ニ命シ和約調成ニ付テ評議スル爲ニ貸金ノ檢査明言若クハ假認可ヲ得タル諸債主ヲ徵召セシムルヲ要ス此徵召モ亦新聞紙ニ於テ之ヲ報告ス（書式第九十三號及第百九十四號ヲ參看スベシ）

集會ハ主任判事ノ定メタル日時并ニ場所ニ之ヲ開キ主任判事之ヲ總轄ス檢査明言若クハ假認可ヲ得タル債主ハ本人出頭シ又ハ代理人ヲ參會セシム

或ル著述家ノ說ニ假認可ヲ得タル債主ハ其貸金ヲ明言セシ上ナラデハ談會ニ出席スルヲ得ズトス

又一說ニハ法律ニ於テ此債主ニ對シテ明言ヲ要セス蓋シ之ヲ要シ之ヲ爲サシムルトハ既ニ確定ノ認可ヲ付セシノ疑ヒヲ生スベシト吾輩法律ノ文意ニ據テ之ヲ考フルニ此說理アルカ如シ

亡產人モ亦集會ニ徵召セラル（書式第百九十五號ヲ參看スベシ）其監倉ニ拘留セラレズ又ハ宥免狀ヲ得タルトキハ自ラ出頭スルヲ要ス尚モ至

當ノ事故アリテ主任判事ノ之ヲ認許セシ件ニ非サルヨリハ決シテ代理人ヲ出スヲ得ス

第五百六條○集會ヲ開キタル件管財人ハ亡産ノ景況從來滿足セシ諸成規及ヒ處分ヲ全會ニ向テ報告ス○時宜ニ於テ報告ノ誤謬ヲ爭フ為ニ亡産人ノ言フ所ヲ聞カサルベカラズ

此管財人ノ報告ハ管財人中連署ノ書面ヲ以テ主任判事ニ呈進ス

主任判事ハ集會中ノ陳述及ヒ議決ノ取調書ヲ編成ス〔書式第九十六條ヲ參看スベシ〕

第二款　和約書ノ事

和約書トハ檢査ト明言トヲ經又ハ假ニ認可セラレタル貸金全額ノ四分ノ三以上ノ債券ヲ有スル債主過半數ト亡産ヲ公告セラレシ負債人トノ間ニ於テ成規ニ遵テ結ヒタル諸約定ヲ謂フ

註○債主ハ亡産公告ノ期ニ臨ミ既ニ負債人ニ還債ノ延期ヲ承諾スルヿ少カラス此約定ヲ稱シテ延期約定（アテルモ約ヤマシ）ト謂フ（譯者曰ク和約ト異ナリ）

第一節　和約書ヲ作ル事

第五百七條○吾輩ノ前項ニ掲述セシ法式（即チ計算簿ノ編成目録及ヒ負債ノ檢査）ヲ滿足シタル上ニ非サレハ諸債主ト亡産人トノ間ニ和約書ヲ承諾スルヲ得ズ○實ニ法律ニ於テハ諸債主ノ亡産ノ原由ヲ熟知シテ然ル後チ亡産人ト結約センヿヲ要セシナリ

註○然レトモアンジェール府裁判院ノ判決ニ負債檢査ノ法規ヲ滿足セザル内ト雖モ既ニ亡産ノ公告ヲ爲シ諸債主ニ於テモ其性質ノ如何ニ拘ラズ一同領承セシトキハ和約書ヲ承諾スルヿヲ得ベシトセリ

和約書ヲ爲スニ付テハ各債主ノ承諾ヲ得ルヲ要セスト雖モ二ツノ要用ナル事項アリ第一ニ債主全員ノ多數（即チ半數ト一名）ノ協同ヲ要ス即チ此ニ債主四十名アルトキハ必ス其内二十一人ノ承諾ヲ要ス（一）第二ニ此二十一名ノ債主等ハ檢査ト明言トヲ經又ハ假ニ認可セラレタル債額四分ノ三以上ノ債主タルヿヲ要ス譬ヘバ此ニ檢査ト明言トヲ經又ハ假ニ認可セラレタル債額十萬圓アルトキハ二十一名ノ債主ハ各自ノ貸

金ヲ合スレバ七萬五千圓以上タルヿヲ要ス

註○一「モントペリエール」府裁判院ノ判決ニ數名ノ債主ヨリ一名ノ代理人ヲ出シテ和約書ノ調成ニ參預セシメ代印ヲ署セシムルヲ得ベシトセリ千八百五十八年七月十日ノ決議

債主全員ノ半數以下ニテ承諾セシ約定ハ總テ無効トス又假令其過半數ニテ承諾セシモノトヽ雖モ債額四分ノ三ヲ有スルモノニ非サルヰハ亦無効トス

蓋シ立法者ノ債主全員ノ過半數ヲ要セシ所以ハ小債主等カ大債主等ノ決セシ方法ニ牽制セラレ己ムヲ得ズシテ屈從スル患害ヲ防キタルナリ又債額四分ノ三ヲ要セシ所以ハ小債主等カ自己ノ意見ヲ遅フシテ大債主等ヲ壓倒セシムル弊害ヲ防キシナリ

負債人ノ亡産後ニ於ケルモ負債人ニ對スル貸金數口ノ讓請人トナリタル者ハ彼ノ和約書ヲ作ル為メニ要用ナル過半數中ニ己レノ名ヲ貸金ノ口數ニ照シテ算入セントト要求スルヲ得ス

而シテ其貸金ノ幾口アルニ拘ラス一人一箇ノ投票ヲ為スヲ得ルノミ蓋シ大審院ノ判決セシ所ナリ〔千八百四十年三月二十四日ノ決定〕

檢査ノ際ニ認許セラレタル債主等ハ和約評議ノ集會ニ出頭シ若クハ代理人ヲ出サヾルモ差支ナシトス此事ニ就テ和約ヲ作ル爲メニ要用ナル過半數ハ現在ノ債主ニ付テ算スベキカ又ハ檢査ヲ受タル債主ノ數ニ付テ算スベキカヲ知ルベキ問題ヲ引出セリ

第一説○過半數ハ評議ニ參會セシ債主ノ數中ニ付テ之ヲ決セサルベカラズ商法ノ舊文ノ行ハルヽノ間ハ斯ノ如クニテアリキ殊ニ其第五百二十二條ニ「若シ現在ノ債主ノ多數ガ承諾セシナラバ云々」ノ語アリ而シテ立法者ノ該法則ヲ變更セントノ企望セシモノハ更ニ之レ無シ

第二説○千八百三十八年ノ法律ハ舊法第五百二十二條ヲ掲出スト該論者ノ説ニ一方ニ在テ檢査明言ヲ經タル貸金ノ全額ニ就テ貸高四分ノ三ヲ計算ス然ルニ一方ニ在テハ和約ヲ作ルニ要用ナル投票ノ數ハ右ノ法式ヲ經タル貸金

ヲ有スル債主全員ニ付テ過半數ヲ取ラザルト
スルニ於テハ兩項矛盾シ其權衡ヲ得ザルベシ」
大審院ハ如何ナル文字ヲ以テ此第二ノ説ヲ用
ヒタルカヲ見ルベシ
「商法第五百七條ハ千八百七年ノ商法第五百七
條ニ符合シ和約書ヲ作ルニ就テ二樣ノ要旨ヲ
定メタリ第一主任判事ノ徵召ト其管督ヲ受ケ
テ債主等ノ評議ヲ爲セシ事項ノ外ハ亡産人ト
債主トノ間ニ決スルヲ得ス第二此定約ハ過半
數ヲ爲シ且ツ檢査明言又ハ假ニ認可セラレタ

ル貸金全額四分ノ三ヲ有スル債主等ノ參會ヲ
以テセサレバ成立スベカラス抑過半數ヲ爲ス
債主ノ數ト謂ヘル文意ヲ思考スルニ亡産ニ認
許セラレタル債主ノ全員ニ付テ計算セル過半
數ト解スルノ外無シ何トナレハ債主ハ和約ニ
關シテ悉ク均一ノ權利ヲ有シ且ツ金額ノ多數
ハ檢査ヲ得タル貸金全額ニ付テ計算スレハ人
員ノ多數モ亦認許ヲ受ケタル債主全員ニ付テ
計算スルハ勿論當然ト謂ハザルヲ得ス（又前
ニ掲クル二樣ノ至重ナル多數ニ依リテ彼ノ債

主全員ノ法律トナリ少數ノ説ヲ唱フル者ノ為ニハ數〻大ナル損失ヲ與フル所ノ條約ヲ全員ニ承諾セシムル為ニ十分ナル道理ヲ指示スニ足ルベシ○或ル論者ノ千八百七年ノ法典第五百二十二條ハ和約評議ノ集會ニ現在スル債主ノ多數ヲ要求スルニ過キスト主張スルハ全ク無用ト謂フベシ○該條ノ成規ニ於テハ現在債主ノ過半數ハ和約ヲ承諾シ而シテ其特別ノ場合ニ當テ舊法第五百十七條ニ定ムル所及ヒ新法第五百七條ニ重掲セシ主義ニ反シ特別ノ處

分ヲ為セシ中ニ際シ之ヲ後日ノ會議ニ送致スルヿヲ許セシト雖モ此特別ノ方法ハ千八百三十八年ノ法律草案中ニ於テハ復之ヲ掲出セサリキ蓋シ該法ニ於テハ和約ヲ後日ノ會議ニ送致スルニ就テモ和約書ヲ作ルヿ同樣ノ過半數ヲ以テ決スルヿヲ要ストセリ○千八百三十八年ノ立法者ノ第五百九條ニ現在ノ債主ナル數字ヲ刪除セシヿハ後項ナル第五百三十條中ニ此特別ノ多數ヲ設ケタルヲ見テ最モ明瞭ナルベシ蓋シ第五百三十條ニ在テハ一意ニ亡產人

ニ對シテ慈愛ノ情ヲ付スル方法ヲ主トスルヲ以テ立法者ハ多數ノ一ニ於テ故ラニ寛容ノ法ヲ立テタリ○右等ノ理由ナルカ故ニ亡產ノ法律ニ人員多數ノ語アレハ常ニ亡產ノ借高中ニ認許セラレタル債主全員ノ過半數ヲ指スモノト信認セサルヲ得ズ而シテ該成規ヨリ特別ノ法ヲ爲スヒハ法文ニ故ラニ之ヲ揭出スル1第五百三十條及第五百三十二條ニ於ケル如シト信スベシ云々」

且又第五百七條ニ金額ノ四分ノ三ノ多數ハ檢査明言又ハ假認可ヲ得タル貸高上ニ就テ之ヲ算スルノ明文アリ

第五百八條○登記ヲ爲シ又ハ登記ヲ除免セラレタル書入質ノ權アル債主及ヒ特權ヲ有シ又ハ典物ヲ有スル債主ハ和約ヲ作ル1ニ投票スルノ權利ヲ有セザルベシ故ニ債額四分ノ三ヲ算スルニ就テハ檢査ヲ經タル債額ヨリ質物特權又ハ抵當アル債金ヲ引去ルヲ要ス

○若シ然ラサルヒハ是等ノ債主ハ質物特權及ヒ抵當ニ依テ我カ貸金ノ保証ヲ有スルヲ以テ

容易ニ減債ノ投票ヲ爲スベシ而シテ此減債タルヤ眞ニ無質及ヒ無特權ノ債主ノミ之ヲ負擔セサルベカラズ

質物特權又ハ抵當ヲ有スル債主投票ヲ爲セシ時ニハ投票ノ爲メニ法律上ヨリ本人ハ質物又ハ特權ヲ拋棄セシモノト見做スベシ〔一〕○然レ𪜈若シ此種類ノ債主ハ別ニ質物特權又ハ抵當ヲ有セサル貸金ヲモ併有スル時ハ其貸高ノ爲メニ和約ニ投票スルモ妨ケナシ第五百八條第一項ノ「前陳ノ貸金ノ爲ニ」ト云ヘル語ハ抵當ヲ有セサル債主ヲハ含蓄セサルヿヲ指示セルナリ

註○〔一〕斯クノ如ク權利ヲ拋棄セシ時ハ假令其評議無効ニ歸シ和約ノ好結果ヲ得サリシ時ト雖モ復タ之ヲ恢復スベカラス「ボルドー」府裁判院千八百五十八年八月十九日并千八百四十四年八月二十二日ノ決定〕

質物特權又ハ抵當ヲ拋棄スル債主ハ無論和約評議ニ參スルヲ得ベシ

註○大審院ノ判決ニ書入質ノ權ヲ有スル債

主タリト雖モ要用ノ登記ヲ債主列名簿ニ爲シ得サル者ハ和約ニ干預スルヿヲ得ベシ故ニ談債主若シ和約ニ與カラサリシ片ハ其利益ニ向テ不條理ノアル和約ニ對シテ訴ヘ出ルヲ得ベシ

千八百四十年十二月二十一日訴訟局ノ決議

一般ニ論者ノ決スル所ハ債主ノ撰取ニ任カストセリ即チ投票ヲ爲サントト欲シテ其質物又ハ特權ヲ拋棄センカ將タ質物又ハ特權ヲ保存セントト欲シテ投票ニ干渉セサランカ二ツノ者債主ノ隨意タリ此論ハ穩當ト云フベシ

然ルニ或ル論者ノ說ニ曰ク譬ヘハ十萬圓ノ債主アランニ談債主五萬圓ニ應スル質物又ハ特權ヲ拋棄スルヲ公告スルトキハ他ノ殘額ニ對スル特權又ハ質物ニ影響ヲ生スルヿナク右五萬圓ノ額ニ就テ和約ニ參會スルヲ得ベシ其說ニ此拋棄ノ方法ニ據レハ債主ハ質物又ハ特權ヲ拋棄セシ貸金ノ部分ニ付テハ全ク他ノ一般ノ無質債主ト均一ノ地位ニ在ルカ故ニ彼レ等ト同一ノ權利ヲ有セサルベカラズト

論者ハ之ニ答フルニ第五百八條ノ汎則ハ全ク右ノ論則ニ反セリト謂フヲ得ベシ

假令貸金ノ半額ニ就テ抵當ヲ拋棄セシ債主ハ訣半額ニ就テハ無質債主ト同樣ノ地位ニ在ルトモ他ノ半額ニ就テハ他ノ債主等ト同一ノ地位ニ在ラス何トナレハ訣半額ハ質物又ハ特權ヲ以テ之ヲ保證セリ是故ニ評議ニ臨ンテ或ハ寛大ノ心ヲ起シ自分ト同一ノ保証ヲ有セサル債主等ノ損失ヲ顧ミズシテ容易ニ減債等ヲ承諾スルノ恐レナシトセズ

法律ニ於テ質物又ハ特權ヲ有スル債主投票ヲ爲スニハ必ス其質物又ハ特權ヲ拋棄スルモノトスト揭出セシハ他ノ辨駁ニ係ラサル質物又ハ特權ヲ指示スルナリ何トナレハ讀者既ニ見タル如ク〔第五百一條〕其辨駁ニ係ル質物又ハ特權ノ債主ハ評議ニ參會スルヲ得後チニ其權利確認セラルヽモ先取ノ權利ヲ失フヿ無シ

第五百九條○和約書ハ集會ノ席ニ於テ署印セサレバ無効ニ歸スベシ此法意ハ一席ニ於テ評議モ投票モ之ヲ結局スベシト謂ヘル義ニ非ス

蓋シ之ヲ承諾セシ當日ノ集會ニ於テ署印スルヲ要スト謂フ意ナリ或論者ノ説ノ如ク立法者ノ精神ハ情負誘動賄賂等ヲ以テ署名セシムル爲メニ人ノ債主ノ家ニ和約書ヲ持參スルヲ得サラシムルニ在リ

和約ヲ承諾スル爲メニ人員ノ多數ヲ得ルト雖モ其人員ハ債額四分ノ三ヲ有セサルカ又ハ其反對ニテ債額四分ノ三ヲ有スル者和約ヲ承諾セシモ其人員ハ債主全員ノ過半數ニ至ラサルトキハ再考承諾シテ不足ノ數ヲ充ルノ好結果ヲ得ンカ爲メニハ八日以内ヲ限リ評議ヲ延引スルヲ得ベシ

右ノ場合ニ在リテハ第一回ノ會議ニ於テ爲セシ決議及ヒ承諾ハ全ク消滅セシモノトス而シテ債主ハ第一回ニ發言セシ承諾ヲ變更スルノ自由ヲ有ス

然レトモ人員ノ多數モ債額ノ多數モ兩ツナカラ之ヲ得サルトキハ評議ノ延期ヲ爲スニ由シナキヲ以テ第一回ニ於テ直ニ其局ヲ結フベシ

又上項ニ述ル如ク人員又ハ債額ノ多數ヲ欠ク

カ故ニ評議ヲ延引セシ場合ニ在テ第二回ノ集會ヲ開キ復タ前回ノ如キ一方ノ多數ノミニ過キサルトキハ和約ノ丁ハ廢棄トス

若シ次回ニ於テ更ニ兩方ノ多數ヲ得タルトキハ和約ヲ決諾シ主任判事ハ此第二回ノ調書ヲ編成シ之ニ和約書ヲ付加スベシ〔書式第百九十七號及第百九十八號ヲ參看スヘシ〕

第五百十條及第五百十一條○詐偽倒産ハ最重犯罪中ノ一タルヲ以テ法律ニ其罪ヲ犯セシ罰ヲ受ケタル亡産人ニ於テハ其利益ノ為メニ和

約ヲ承諾スル丁ヲ債主ニ向テ禁止セリ何トナレバ和約ハ忠實ノ亡産人ニ付與スベキ恩惠ト見做ス者ナレハナリ然レトモ之ニ反シ通常倒産人トシテ科刑セラレタル者ニハ和約ヲ付與スル丁ヲ許セリ蓋シ立法者謂ヘラク此場合ニ在テ和約ヲ禁スルトキハ法苛酷ニ當ルベシ何トナレバ談亡産人ニ向テハ其不注意又ハ怠惰ヲ譴責スルニ止マル而已ナラス併セテ復權ノ榮譽ヲ得ルヲ許サルベキ者ナルヲ以テ若シ和約ヲ禁スルトセハ兩事權衡ヲ得サルベシト〔第六百

十二條ヲ參看スベシ

詐偽倒產ノ治罪ヲ開キタルトキハ裁判官ハ諸債主ヲ徵召シ若シ本人ノ放免セラレタルトキハ和約ノ評議ヲ為サントスルカ若シ然ルトキハ審判ノ結局マテ倒產ノ處分ヲ延期スルヿヲ望ムヤ否ヤヲ定メシム

又通常倒產ニ就テ吟味アルトキモ亦債主等ハ其結局マテ評議ヲ遲延スルヲ得ベシ而シテ吟味中自然生出スヘキ事件ニ就テ大ニ了解スル所アルベシ

右二ツノ場合ニ在テハ延期ハ債額四分ノ三ヲ有スル債主過半數ノ承諾ヲ以テ之ヲ公告スベシ

第五百十二條○凡ソ和約ニ參スルノ權利ヲ有スル債主若クハ和約ヲ作リシ後チ其權利ヲ公認セラレタル債主ハ和約ニ對シテ辨駁ヲ起スヿヲ得ベシ

註○管財人ニ其名ヲ通知セシ債主若シ書記官ヨリ徵召ヲ得サリシトキハ和約ニ對シテ辨駁ヲ為シ破棄ヲ請求スルノ權アリ且他人ヨリ商法第五百十二條及第五百十八條ヲ以テ

之ニ抗スルヲ得ス

〔千八百六十七年三月十四日「ロキス」裁判院ノ決議〕

檢査ヲ受ケス明言ヲ爲サス及ヒ假認可ヲ得サル債主ハ和約評議ノ權利ニ就テ辨駁スル所アルモ之ヲ受理セズ

質物又ハ特權アル債主モ亦和約ノ投票ニ關スルヲ得サルヲ以テ一般ニ論辨ヲ爲スヲ得ス但シ先取ノ權ヲ抛棄スルトキハ此限ニ在ラス

或ル論者謂ヘラク和約ヲ承諾シテ署名セシ債主ハ其辨駁スル所詐偽若クハ隱匿ノ事ニ關スルトキニ非サレバ論辨ノ權利ヲ有セズ且自ラ不規則又ハ無効ヲ承知シテ之ニ署名セシト認メラルヽトキハ其事柄ヲ後日ニ抗爭スル權利ハ素ヨリ之ヲ付與セス

然レトモ一般論者ハ論辨ノ權利ハ和約ニ署名セシト否ヤトヲ論セズ概シテ之ヲ有ストセリ實ニ此署名人等ハ規則ニ合セシ和約ニ非サレバ承諾セサリシハ必然ナリ殊ニ法律ニ於テハ署名人ト他ノ別ナク各債主ニ論辨ノ權ヲ付與セリ是論至當ト謂フベシ

立法者ノ精神ハ論辨ヲ許可シテ以テ和約ヨリ生出スル所ノ弊害ヲ和約ヲ認可ス可キ裁判所

[redacted]ニ[redacted]了知セシムルノ權利ヲ亡産ニ關係アル人々ニ付スルノ點ニ在リキ辨駁ヲ爲スヒハ必ス其源由ヲ記スルヲ要ス譬ヘバ主任判事ノ撿査及ヒ明言未了中ニ和約ヲ許セシヿ律文掲クル所ノ人員ニ滿タサル少數ヲ以テ評議ヲ決セシヿ又ハ議決現在ノ集會ニ於テ和約書ニ署名セサリシヿノ如キ皆其原由ナリ

書式第百九十九號ヲ參看スベシ

○辨駁ハ和約書ヲ作リシ日ヨリ八日以内ニ管財人ト亡産人ニ通知セサルヒハ無効タルベシ勿論道路ノ遠近ニ由テ異ナルヿナシ且ツ後次ノ商事裁判所ノ開會ニ參出スベキ由ヲ告クベシ

註○巴里裁判院ノ判決ニ呼喚ハ少クトモ一日ノ猶豫ヲ與フルヿヲ要ス然ラサレバ無効タルベシ若シ火急ノ呼喚ヲ爲セシヒハ談狀ノ無効タルノミナラス辨駁ノ無効ヲ來タスヿアルベシ

千八百四十年七月七日ノ決定

管財人若シ和約ヲ辨駁スルヒハ管財人數名ヲ

レバ辨駁ヲ爲ス管財人ハ其同僚ノ數名若クハ一名ニ其事ヲ通知スベシ若シ一名ナレバ速カニ新管財人ヲ擇ハシメテ之ニ通知スベシ〔書式第二百號ヲ參看スヘシ〕

辨駁ニ係ル爭論ハ商事裁判ニ於テ判決ス○然レトモ辨駁ノ判決其權外ナル他ノ事件ヨリ連ナルトキハ該裁判所ハ其宣告ヲ見合セ辨駁人ヨリ主任判事ニ訴ヘ出ツベキ日限ヲ近日ニ定ムルヲ要スト而シテ辨駁ノ判決ノ由テ起ル所ノ問題ヲ他ノ裁判所ニ於テ決セシ後ニ再ヒ辨駁人ハ

商事裁判所ニ出テ爭論ノ判決ヲ請フベシ

和約書ハ商事裁判所ノ認可ヲ經サレバ假令之ニ署名セシモノタリトモ遵守ノ義務ヲ有セス〔蓋シ立法者ハ同時ニ社會ノ利益及ヒ債主ノ利益ニ注意スルヿヲ任セシ裁判官ノ決定ニ由ルニ非サレバ和約書ヲ施行スルヲ禁セシナリ〕

第五百十三條○和約書ノ認可ハ該書ニ管係アル數人ノ中最モ先キニ發意スルモノヨリ之ヲ願出ベシ○此請求ハ亡產ヲ擔任セシ商法裁判所ニ提出スベシ而シテ該裁判所ハ吾輩先キニ

陳セシ所ノ辨駁ヲ爲スヲ許セシ八日ノ期限後ニ至ラサレバ之ヲ決定スルヲ得ズ

若シ右ノ八日以内ニ辨駁ヲ爲セシ者アレバ裁判所ハ〔一〕允可ノ請求ト辨駁ノ訴ヘトヲ同時ニ判決スベシ

註○〔一〕辨駁ノ源由商法裁判所ノ權内ニ在ルヰニ限ル

一人ノ辨駁タリトモ之ヲ認許セシヰハ總テ關係ヲ有スル人々ノ爲メニモ和約ハ破棄セシモノトス

第五百十四條○何レノ場合ニ於テモ認可ノ事ヲ決定セサル前ニ主任判事ヨリ亡産ノ性質ト和約ノ認可スヘキ理由トヲ裁判所ニ報告スルヲ要ス此法式ノ目的ハ認可上ニ宣告スベキ判事等ノ他ノ詐偽ノ爲メニ誤マラルヽ無キヲ保スル爲メナリ〔書式第二百一號及第二百二號ヲ參看スヘシ〕

註○此規則ハ初告ノ裁判ニ於ケルニ非サレハ之ヲ施行シ得ベカラズ〔千八百五十三年五月二日訴訟局ノ決定〕

第五百十五條○裁判所ハ辨駁ヲ爲セシモノ有リシトキ又ハ之レナキトキニテモ上ニ掲示セル規則ニ適セサルヿヲ發見スルカ又ハ社會ノ利益若クハ債主ノ利益ニ害アル源由ヲ發見セシトキハ認可ヲ拒辭スベシ○然レトモ認可ヲ拒辭スルノ權利ヲ裁判所ニ付セシト雖モ裁判所ニ於テ和約書ノ修正ヲ命シテ之ヲ認可スル爲メニ雙方ノ契約ニ參入スルノ權利ヲモ併セ付セシニ非ス譬ヘハ和約書ヲ承諾セシ者等ニ對シテ其契約セシ仕方ヨリ他ノ仕方ニ就テ亡産人ノ財

産ヲ得ルヿノ責任ヲ命令スルヿヲ得サルベシ

註○千八百四十六年六月六日「ナンシイ」裁判院千八百三十九年二月二十三日巴里裁判院ノ決議ハ斯ノ精神ナリ

一般ニ認可ヲ決定スヘキ裁判所ノ決議ハ控訴ノ道ヲ以テ之ヲ辨駁スルヲ得ベシ蓋シ吾輩ハ商法第五百八十三條控訴ヲ得サル判決ヲ掲示セル條規中ニ右ノ決議ヲ加入セサルヿヲ後項ニ示スベシ

註○辨駁者ヨリ和約ニ就テ提出セシ故障ノ

性質ヲ斷定スルハ辨駁ヲ受理擔任セル判事ノ專權ニシテ大審院ノ批評ヲ受クベキモノニ非ス〔千八百三十九年五月十四日訴訟局ノ決議〕

第二節　和約書ノ効能

和約ハ亡產人ノ為メニ種々ノ約束ト方法トニ就テ之ヲ承諾スルヲ得乃チ債主ハ亡產人ノ負債ヲ辨償シ得ル為メニ相當ノ延期ヲ付與スルヲ得而シテ多クハ減債ヲ承諾スルアリ

減債ヲ為セシ場合ニ在テハ和約書ニ依テ減少セシ債額ハ全ク負債人ノ辨償セシモノト見做ス故ニ向後財產ヲ積ミ得タル時ト雖モ債主ハ彼レニ對シ嘗テ免除セシ所ノ債額ヲ請求スルヲ得ザルベシ

註○民法ニ關スル一大問題アリ何ソヤ若シ亡產人和約ヲ受ケタル後チ債主中ノ一人ノ財產相續人トナリタルトキハ其相續仲間ハ談人ヲシテ先キニ和約書ニ依テ減少セシ債額ノ部分ヲ談債主ノ遺物中ニ返還セシムルノ權ヲ有スルヤ否ヤノ問題是レナリ

甲ノ論者ハ和約人并ニ相續人タル亡產人ハ現實ニ辨償セサリシ所ノ負債ノ部分ヲ返還セサル可カラスト主張ス其說ニ曰ク財產相續人ハ死亡者ノ負債人トナリタルヲ以テ其レカ為メニ負債ノ全額ヲ返償スヘキ不慮ノ責任ヲ負フナリ若シ和約書ニ依テ減スル所ノ債額ノ責任ハ死亡人ニ對シテ之ヲ免カルヽモノトスルモ其相續仲間ニ對シ返償スヘキノ責任ハ和約書ノ免カレシムル所ニ非ス吾說ニ反スルノ決定ヲ為ストキハ相續人中ノ同等權ヲ害スルニ至ラン該權ハ乃チ返償ニ依テ維持セントスルモノナリ

乙論者ハ曰ク和約ヲ以テ承諾セシ減債ハ恩惠ノ讓與ニ非ス蓋シ債主ハ連合ノ方法ノ費用ト不都合トヲ避ケンカ為ニ之ヲ承諾セシニ外ナラス主義ニ於テ和約ヲ受ケタル者ハ其減少ヲ得タル殘債ノ金額ヲ超過スル部分ニ就テハ全ク其責ヲ免カレタルモノナリ是故ニ更ニ返償ヲ論スヘキ理由無シト吾輩ハ乙ノ說ヲ優レリトス

然レトモ吾輩後ニ見ルヘシ復權ヲ爲シテ亡產ヨリ生出セシ不自由ヲ消除セントスルニハ其債主ノ受ケタル損害即チ元利及ヒ入費トモ全ク返辨セシ後ニ非サレハ其請求ヲ受理セサル丨ヲ

〔商法第六百四條ヲ參看スベシ〕

第五百十六條○和約書ヲ認可セシ上ハ計算簿ニ登記セラレタルト否トヲ論セス檢査ヲ得ルト得サリシトヲ問ハス總テノ債主之ヲ遵守セサルヲ得ス〔一〕○且佛國大陸ノ外ニ居住セル債主ニシテ其檢査ヲ願フノ期限ハ未タ滿期ニ至

ラサル者及ヒ假リニ評議人負ニ入ルヲ許サレタル者ニシテ後日確定ノ判決ヲ以テ假定ノ見込ヨリ超過セル債額ヲ許セシトキト雖モ總テ右ノ和約書ヲ遵守スル義務ヲ有ス

註○〔一〕「ボルドー」裁判院ノ判決ニ和約ヲ施行スルヿノ保証人ヲ立ツルヿハ檢査ヲ受ケズ明言ヲ爲サヾル債主タリトモ之ヲ受ケ之ヲ爲セシ債主ト同樣ナリ〔千八百四十三年二月二十四日ノ決定〕

然レトモ質物若クハ特權ヲ有スル債主其權利ヲ

拋棄セサリシキハ其保証物上ニ十分ノ處分ヲ爲スヿヲ得ベシ

諸宣告ニ和約ハ至當ニ記名セラレサリシ有質債主ニシテ其質物ヲモ拋棄セス投票ヲモ爲サヾリシ者亡產人ヲ二重典責人トシテ告訴シ時宜ニ於テハ其身體ヲ拘留セシメテモ其債額ノ全部ヲ拂ハシムルヿニ付テ障碍ヲ爲サズトセリ論者ノ說ニ和約書ハ亡產人ト無質債主トノ間ニ成ルモノニ付有質債主ノ權利ヲ妨害スルヿモ其地位ヨリ生スル訴訟權ヲ剝奪スルヿモ之レナシ故ニ二重典責ノ訴訟ハ勿論有質証書ニ附屬スルモノトス

註○千八百四十年一月二十八日大審院ノ決定千八百三十三年二月二十六日巴里裁判院ノ決定千八百三十四年十二月九日「ボルドー」裁判院ノ決定千八百四十三年十一月十三日巴里裁判院ノ決定ヲ見ルベシ

然レドモ世上ノ著述家ハ此裁判事例ヲ辨駁セシモノ少カラズ曰ク法律ハ明瞭ニ總債主ニ普通ノ約束ヲ遵守スベキヲ命セシヲ以テ質物ノ効

ヲ害セラレタル債主ニ其損害ヲ償フカ為メニ身體ノ拘留ヲ來タスヿ如キ特種ノ訴訟ヲ爲スヿヲ許スヿヲ得ザルベシ蓋シ其訴訟ハ和約ヲ爲セシ債主等ノ豫メ知ラサリシ所ノ拘留處分ヲ引起シテ爲メニ亡産人ヲシテ談和約ヲ滿足シ得サルノ地位ニ陷ラシムベシ○然レトモ此問題ハ千八百六十七年七月二十二日ノ法律ヲ以テ負債ノ爲ニ身體ヲ拘留スルノ刑ヲ廢セシヨリ以往ハ不用ノ問題ニ屬セリ

第五百十七條○和約書ノ認可ハ各債主ヲシテ亡産人ノ動産ニ就テ各人所有ノ質物權ヲ保存スルヲ得セシム其質物權ハ上文述ル如ク

第四百九十條 管財人ノ登記ヲ爲セシヿヲ要ス○之カ為メニ管財人ハ和約書ニ別段ノ契約ヲ為スニアラサル以上ハ登記役所ニ至リ和約書認可ノ申渡ヲ登記セシム

書式第二百三號ヲ參看スベシ

管財人第四百九十九條ニ據テ登記ヲ爲セシキハ債主ノ權利ハ混合不定ノモノタリ然レトモ和約後第五百十七條ニ掲示スル登記ヲ爲スキハ

各債主ノ權利判然分界ヲ生シ其情實ニ隨テ各確定セル權利ヲ有スルヲ得ベシ是故ニ第二ノ登記即チ認許申渡ノ登記ハ必要ナリ

註○ブラヴァールド氏ノ說ニ據レハ本條ニ論スル所ノ質物權ハ和約ニ依テ亡產ヲ結局セシ後ニ在ラサレバ固有ノ効能ヲ生スルヲ得ズ而シテ若シ此條約ノ成ラサルトキハ債主ノ利益ノ為メニ質物權アルヿナシト吾輩ノ此論則ヲ取ラサルハ既ニ上文第四款ニ見ヘタリ

第五百十九條○和約書中ノ定約ヨリ生スル特種ノ効力ノ外ニ談和約認可ノ結果ナル一般ノ効力アリ何ソヤ亡產公告申渡ヨリ生セシ管財權ノ剝奪ヲ回復シ再ヒ亡產人ヲシテ其財產ヲ主管スルヲ得セシム

一○然レトモ是事ハ認可申渡ノ確定シテ變セサル後ニ限ルベシ即チ控訴期限ノ盡了セシ時控訴アリトモ控訴院ハ從前ノ申渡ヲ至當ト審判セシ時管財人ハ其職ヲ解キ亡產人ニ對シ確算ヲ為スヲ要スル時ナリ蓋シ其決算ハ主任判事ノ面前ニ於テ討議決定スヽ若シ決算上ニ爭論ヲ生スルトキハ商事裁判所

ニ於テ之ヲ判決ス

註〇一然レトモ其事亡産人カ和約書ニ因テ債主ニ抛棄セシ財産ニ就テ總債主ノ利益ノ為メニ構成セル負債ニ係ル中ハ其訴訟ハ總債主ノ代理人ニ對シ之ヲ為スヲ要シ而シテ亡産人ニ對シテ之ヲ為スベカラス千八百四十五年二月十一日訴訟局ノ決議

管財人ハ亡産人ニ其帳簿書類及ヒ什器ヲ返還ス而シテ亡産人ハ請取證ヲ付與ス

主任判事ハ亡産始末ノ調書ヲ為シ同ク其職務ヲ解ク書式第二百四號ヲ參看スベシ

第三節　和約書ノ取消及ヒ解除

主義ニ於テ和約書ハ一タヒ認可ヲ受ケタル時ハ之ヲ動カス可カラス語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ事既ニ此ニ至レリ最早書式ノ誤謬又ハ其調成前并調成中履行ヲ要スル成規ノ不注意等ノ為メニ之ヲ取消スベカラズ唯承諾スルト否トハ債主ニ在ルノミ

若シ負債主他ニ貸ス者ヲ隱匿シ自ラ借ル者ハ虚數ヲ張ル等ノ詐偽アリテ其事認可後發露セ

シ時ハ法律ニ於テ特ニ之ヲ理由トシテ認可ヲ取消スヿハ特別ヲ以テ之ヲ許ス是故ニ認可後ニ債主若シ負債人ノ貸高ノ部分ヲ隱匿セシカ又ハ詐偽ノ徒亡產人ト謀リ債主人員ノ多數及ヒ債額ノ多數ヲ得ルタメニ自ラ債主ト爲リ和約投票ノ人員ニ加ハリタルカノ証据ヲ發見セシナレハ和約書ノ取消ヲ請求スルヲ得ベシ其他認可後亡產人詐偽倒產ノ刑ニ處セラルヽトキハ勿論和約書ハ無効ニ歸スベシ〔第五百二十二條ノ論理〕

註○和約前ニ詐偽倒產ノ刑ノ宣告アラハ之ヲ作ルヲ得サルハ讀者ノ知ル所ナリ〔商法第五百十條〕

吾輩ハ貸高ノ隱匿及ヒ借高ノ虛妄ハ詐偽倒產ノ場合ナルヿヲ後ニ見ントス〔商法第五百九十一條〕故ニ論者ハ立法者ニ向テ何故ニ立法者ハ此二事ト詐偽倒產ノ場合トヲ別々ニ說明セシカヲ質疑スルヲ得ベシ然レトモ債主ハ詐偽倒產訴訟（即チ刑事ノ訴訟）ノ道ヨリ民事訴訟ノ道ヲ以テスルヲ擇フノ權アリ且ツ債主ノ利益ハ彼ノ檢事局

ノ訴訟ノ原ツク所ノ社會ノ利益トハ全ク別種ナルヲ以テ債主ハ亡産人ノ故免ト否トニ拘ラス貸高ノ隱匿又ハ借高ノ虚妄ノ爲メニ和約書ノ取消ヲ請求スルヲ得ベシ

和約書ノ取消ハ保證人ヲ解除ス蓋シ保証人ノ責任ノ消スルハ負債人ノ責任ノ消スルニ因ルナリ

又和約書ハ一ノ條約ナルヲ以テ亡産人其約諾セシ條件ヲ守ラザルニ於テハ普通法ノ主義ニ依テ取消トナルベシ〔拿破倫法典第千百八十四條〕

然レ𪜈論者問フ亡産人一名ノ債主ニ向テ約ヲ守ラサル𪜈談債主ハ和約書ノ取消ヲ請求スルヲ得ルヤト

第一説○亡産人己レニ對シテ條約ヲ守ラサル𪜈ハ其債主ハ和約書中承諾セシ自己ノ減債ヲ取消スヿヲ請求シ得ルト雖モ和約書全體ノ解除ヲ請求スルヲ得ズ蓋シ和約書ハ負債人ト債額四分ノ三ヲ有スル多數ノ債主トニ依テ議定セシモノナルヲ以テ其多數ノ債主ノミ其取消

ヲ請求スルヲ得ベシ然レモ一度和約ノ投票ヲ結局セシヨリハ最早多數ヲ得ルニ由ナシ且ツ立法者ハ法律編成ノ期ニ當リ從前多數債主ノ請求ニ由ルニ非サレバ解除ノ宣告ヲ得ザルノ成規ヲ刪除セリ是故ニ假令定約ノ條件ヲ施行セサル爲メニ和約書ノ解除ヲ宣告セントスルモ得サルナリ因テハ負債人其支債ヲ謝絶シ再ヒ亡產ヲ公告セラルベキ場合ニ在ルト見做シ得ルニ非サルヨリハ和約書ノ解除ヲ生スルヲ得ス○乃チ此論旨ニ於テハ解除ヲ得タル債主ハ

先キニ和約書ニ承諾セシ減債延期若クハ定約施行ノ延期等ヲ廢止スベシ然レモ他ノ債主ト負債人トノ間ニ於テハ和約書ハ依然存在スベシ

第二說○吾輩ハ一名ノ債主ト雖モ和約書ノ解除ヲ請求スルヲ得ベシト信ス何トナレバ此請求權ヲ多數ノ債額ヲ有スル多數ノ債主ニノミ付與セシ舊法ヲ立法者ノ刪除セシハ即チ訣權ヲ各債主ニ分付センカ爲メナリ「報告者ノ曰ク和約書ヲ作リタルヨリ數年ヲ經タルトキハ多ク

ハ多數ヲ見出スヿ難カルベシ然ルトキハ實際解除ノ宣告ヲナスベカラサルノ方法ニ依ラシムト謂フモノナリ加フルニ多數ノ債主ハ既ニ其貸額ヲ受取リテ解除ヲ宣告セシムルノ源由ヲ有セサルヿアルベシ一タヒ解除ヲ得タル以上ハ債主全員ノ和約書ハ悉ク解除セシモノトナリ之ヲ請求セシ債主ノ利益ノ部分ノミ解除セシニ非ス第五百二十二條ハ能ク斯ノ如キヿヲ證示セリ何トナレバ該條ハ公平ニ商法裁判所ノ主任判事及ヒ管財人ヲ命シ然ル後亡產セシ負債人ニ付スル方式ヲ債主全員ニ對シ滿足スルヿヲ命セリ

解除ノ訴訟ハ商事裁判所ニ於テ保証人若シ之アルトキハ〕ノ面前ニテヲ又ハ法ノ如ク召呼シテ至ラサル後其裁判ヲ爲ス何トナレハ和約ノ解除ハ和約取消ノ如ク其全部若クハ一部ノ施行ヲ保護スル爲メニ關係セシ保證人ノ義務ヲ解放スルノ効能ヲ有セサレバナリ

論者右ノ理由ヲ陳シテ曰ク保證人ノ約定ハ負債人自ラ其約ヲ履行セサル場合ノ爲メニ之ヲ

要セシモノナレハ若シ之ヲ解放シ得ルトスル
ヰハ矛盾スル所アルベシト

第五百二十一條○和約書認可後亡産人詐偽倒
産ノ吟味ニ因テ禁獄又ハ拘留セラルヽヰハ商
法裁判所ハ諸債主ノ利益ノ爲メニ其注意ト事
情トニ就テ知覺スル所ノ權利保存ノ處分ヲ命
スルヲ得ベシ此處分ハ停廢ノ公告放免ノ命令
又ハ贖罪ノ宣告等ノ日ヨリ直チニ無効ニ歸ス
ベシ

負債人ハ和約書認可後ト雖モ通常倒産人トシ

テ吟味セラルヽアルベシ然レヒ前項ノ如キ
權利保存ノ處分ヲ爲スニ及ハズ何トナレバ通
常倒産ノ吟味ハ詐偽倒産ノ如ク和約ヲ取消サ
ヾレバナリ

第五百二十二條第五百二十三條○和約書ヲ取
消又ハ解除セシヰハ百事始ニ復シ亡産再生ス
此再生ノ亡産ヲ吟味スルハ猶ホ初度亡産公告
ノ時ニ於テセシ如クスベシ詐偽倒産ノ刑ノ宣
告若クハ取消或ハ解除ノ裁判申渡等ノ事アラ
バ商事裁判所ハ即時ニ主任判事一名及ヒ管財

人一名若クハ數名ヲ命スベシ

亡産初時ノ處分ハ亡産人貸金ノ實況ヲ知ラシメタリト雖モ爾來詐偽ヲ生シ得ベキカ故ニ法律ニ於テ管財人ニ付與スルニ更ニ封印ヲ爲サシムルヿノ自由ヲ以テセリ管財人等ハ遲滯ナク治安判事ノ補助ヲ受ケテ舊目録ニ依リテ貸金證書及ヒ書類ノ檢査ヲ爲スベシ而シテ時宜ニ因テハ目録并ニ計算帳ノ附録ヲ調成スルヿアルベシ何トナレバ亡産人ハ再ヒ肆店ヲ受取リテ商務ヲ措辨シタルヲ以テ新タニ財産ヲ占

有シ若クハ負債ヲ生セシヿアルベシ

管財人ハ直チニ新聞紙上ニ管財ヲ命セラレタル申渡ノ要領ヲ撮記シ新債主若シ之アルトキハ二十日間ニ所有ノ證書ヲ檢査ニ供スベキヲ報知スルヲ要ス

新債主ノ貸金ノ檢査ヲ爲スト雖モ取消若クハ解除ニ歸スル和約書ヲ作リシヨリ以前ニ許可及ヒ明言セシ貸金ノ檢査ハ決シテ再ヒ之ヲ爲サス唯全部若クハ一部ヲ辨償セラレタル所ノ貸金額ヲ除却若クハ減却スルニ止マル

第五百二十四條○右ノ處分ヲ結局セシ後チ和約書ヲ作ルベキヤ否ヤヲ知ル為メニ再ヒ會議ヲ開ク

然レトモ新和約書ハ舊和約ノ解除セシ場合ニアラサレバ之ヲ作ルヿヲ得ズ蓋シ從來負債人ニ於テ不幸ナル事情ヨリシテ舊和約書ノ契約ヲ滿足スル能ハサリシヲ以テナリ千八百三十八年ノ法律ノ評議ノ際立法者ハ新和約ヲ許スベカラザルハ徒ニ亡產人詐偽倒產ノ為メニ科刑セラレタルトキノミナラズ〔此場合ニアレハ甚タ確實ナリ〕貸高ノ隱匿若クハ借高ノ虛妄ヨリ成立スル詐偽ノ理由ノ為メニ舊和約書ヲ解除スベキ場合ニ在テモ再ヒ新和約書ヲ許スベカラズト決定セリ

若シ新和約書ヲ為サヾルトキハ諸債主ハ乃チ連合ヲ為スベシ

註○管財人ノ交代ト再任トニ就テ意見ヲ陳セシムル為メニ債主等ヲ招集ス單ニ言ヘバ吾輩ノ第四款ニ陳述スベキ順序ヲ蹈ムベシ

第五百二十五條○立法者ハ和約書認可ノ申渡

以來亡產人ニ主管ヲ許セシ事務及ヒ和約書ノ取消又ハ解除以前ニ亡產人ノ為セシ事務ノ狀況ヲ審定スベシ此事務ハ普通法ノ主義〔拿破倫法典第千百六十七條〕ニ於テ詐偽ヲ以テ債主ノ權利ヲ妨碍セシ場合ニアラザルノ外取消スベカラズト決セリ乃チ商法第四百四十六條及ヒ其次條ニ預示セシ無効ハ吾輩ノ現ニ論スル所ノ論旨ニ於テハ之ヲ施行スベカラズ亡產人ノ約諾セシ事務ハ如何程和約取消ノ日ニ接近シテ為セシモノト雖モ之ニ對シテ詐偽タルノ思

量ヲ為スベカラズ

亡產ノ公告ニ先タチタル事務ト第二亡產ニ先タチタル事務ノ差別ハ左ノ如ク之ヲ辨明スベシ抑モ和約書ヲ調成セシ時ハ亡產人ハ再ヒ其財產ヲ支配スルヲ得法律ニ於テモ債主ニ於テモ多少他人ニ負債人ト取引ヲ契約スルヿヲ勸奬スル所アリ蓋シ他人ハ負債人ノ其權利ヲ恢復セラレシヲ見テ信用ヲ起スヲ以テナリ是故ニ和約ニ次テ施行セシ事務ヲ一意ニ詐偽ト思量スルハ理ニ孛レリト謂フベシ

和約書ヲ取消又ハ解除セシトキハ談約定前ノ債主ハ亡産人ニ對シテハ充分權利ヲ得ベシ則チ其承諾セシ減債ノ如キハ悉ク消滅ニ歸ス

財産合部ニ就テ諸債主ノ權利ハ左ノ方法ヲ以テ之カ規則ヲ立ツ

和約ニ依テ承諾セシ分付高ヲ未タ受取ラザル者ハ其貸金ノ全部ニ就テ債主タルノ權ヲ有ス

若シ分付高ノ一部分ヲ受取リタルトキハ未タ受取ラザル所ノ部分ニ關係セル當初ノ貸金高ノ部分ノ債主タルノ權ヲ有ス

此ニ一例ヲ擧テ右ノ二問論題ヲ理解セシメン

假令ハ此ニ十萬圓ノ債主アリ談債主ニ對シ和約書ハ百分ノ五十ヲ拂フヿヲ許諾セリ即チ其受クベキ分付高ハ減シテ五萬圓トナリタルナリ然ルニ若シ此五萬圓内ノ少シモ受取ラザルトキハ新亡産ニ就キ當初貸金ノ全部ニ就テ債主タルベシ即チ十萬圓ノ債主タルナリ然レトモ若シ二萬五千圓ヲ受取リタルトキハ其實當初貸金額ニ達スルニハ尚ホ七萬五千圓ヲ要スベシト雖モ新亡産ニ就テハ單ニ五萬圓ノ債主タルベ

シト説明者曰ク亡産人ハ五萬圓ヲ拂フテ十萬圓ヲ辨償スベキ筈ナルヲ以テ二萬五千圓ヲ拂フテ五萬圓ヲ辨償セシ道理ナリ故ニ二萬五千圓ヲ請取リタル債主ハ新債主中ニ在テハ徒ニ五萬円ノ貸金ノ債主タルヲ得ルニ止ルベシ吾輩陳シ來ル所ハ和約書ノ取消又ハ解除ヲ有スル丁無キ以前ニ再度ノ亡産ヲ生セシ場合ニ於テ施行シ得ベキモノナリ

第三欵　財産不足ノ場合ニ於テノ閉鎖

第五百二十七條○亡産處分中未タ和約書ヲ作ルト連結ヲ爲ストヲ議定セサル前亡産人ノ財産ハ其手續ノ費用ニ充ルニ足ラサルヲ發見スルトキハ其手續ヲ止ムルヲ得ベシ此場合ニ在テハ商事裁判所ハ主任判事ノ報告ニ依リ其職務ヲ以テスルモ亡産手續ノ閉鎖ヲ宣告スルヲ得ベシ

書式第二百五號ヲ見ルベシ

讀者宜シク立法者ノ何等ノ語ヲ以テ千八百三十八年ノ法律中改革上項ノ成規ノ理由ヲ陳述セシヲ看ルベシ到底有用ノ目的ナキ手續キニシテ其結果ハ唯亡産人債主及ヒ亡産人ノ後來

契約ヲ爲スベキ他人等ノ狀況ヲ曖昧ニ付シ裁判所及ヒ其書記局ヲシテ無益ノ事務ヲ負擔セシムルニ過キズシテ斯ノ如キ手續ヲ爲スハ畢竟無効ト謂フベシ

亡產閉鎖ノ判決ヲ申渡セシキハ各債主ハ亡產人ノ財產ニ對シテ各名追訴ヲ爲スノ場合ニ復スベシ

一 千八百六十七年七月二十二日拘留禁止ノ法律ヲ設立セシ以前ハ亡產人ニ付與セラレタル宥免狀ヲ取上ケタリ而シテ此酷虐ナル方法ニ依テ實施セラルベキ刑罰ヲ亡產人ニ科セシメタル債主ハ直チニ之ヲ決行セシムルヿヲ得タリ

註○一 讀者ハ先キニ亡產公告ノ宣告後ハ債主銘々ノ追訴ヲ爲スヲ得サルヲ見タルヲ記憶スベシ

亡產手續ノ閉鎖ハ亡產及ヒ亡產ヨリ生スル權利消滅ヲ除去セシムルモノニ非ズ

商法第四百四十三條 亡產人ノ地位ヲ改良セサルノミナラズ却テ上文ニ謂ヒシ如ク亡產人ニ對シ債主銘々ノ追訴ヲ許スヲ以テ亡產人ノ地位ヲ一層危

險ニスルモノナリ

註○然レトモ巴里裁判院ノ判決ニ閉鎖ノ宣告ヲ爲スキハ其取消ナキ内ハ亡産ハ成立セサルモノト見做スベシ故ニ閉鎖宣告後負債人再ヒ亡産ヲ公告セシキハ其公告申渡ハ假令後來閉鎖宣告ノ取消アルトモ規則ニ合セシ有効ノモノト認メラルベシ右ノ場合ニ在テハ從前ノ亡産ト新亡産トハ同時ニ區分ヲ立テ、之ヲ還算スルヲ要ストセリ〔千八百六十七年八月三十日ノ決定〕○此決定ハ決シテ正

實ナラズ蓋シ閉鎖ノ宣告ハ決シテ亡産ヲ終ルモノニ非ス又之ヲ成立セサルモノト見做サシメズ千八百三十八年五月二十八日ノ法律ノ當初ノ考案中ニ裁判所ニ亡産ノ閉鎖ヲ宣告スルヲ任ストセリ其後チ亡産ノ二字ヲ亡産ノ手續ト改メタリ蓋シ亡産ハ依然トシテ亡産ヨリ生出スル條件及ヒ不自由ト共ニ存在スルヿヲ明カニセンカ爲メナリ〔商法第五百二十七條〕巴里裁判院ノ決定ノ方式ニ依レハ第一ノ亡産ノ管財人ハ其代理スル所ノ

衆庶ノ權利ヲ主張セシカ爲メニ第二ノ亡産ニ參管スルノ自由ヲ有スベシ然レトモ權利消滅ハ舊債主ノ爲メニ其効能ヲ生スルヲ止メス且ツ舊債主ハ其賃金ノ償却ヲ受ケサル内ハ負債人ノ現在并ニ將來ノ財産ニ付キ新債主ヨリ先取ノ特權ヲ有スルカ故ニ何如ンソ新債主ノ請求ニ付テ公告セラレタル亡産ヲ以テ舊債主ニ抗爭シ得可キ歟決シテ抗爭シ得ザルベシ一タヒ亡産ヲ公告セシ以上ハ負債人ハ全ク其自由ヲ束縛セラル故ニ各箇ノ

取扱ヲ要スル亡産ノ共立ハ法律上許サヾル所ナリ

亡産手續ノ閉鎖ハ亡産ノ成立ヲ消滅セシムルモノニ非サルカ故ニ種々ノ干渉ヲ生ス就中新債主ハ閉鎖後ニ亡産人ノ得タル財産タリトモ舊債主ト同ク其處分ニ參スルヿヲ得ズ

實ニ商法第四百四十三條ニ於テ亡産人ハ亡産ノ境界ヲ脫セサル内ハ亡産公告後ニ所得トスルヿアルベキ財産タリトモ之ヲ支配スルノ權ヲ失ス亡産人ハ其亡産ノ手續中ニ債主ノ損害

ヲ釀シ貸額ヲ減スル等ノ契約ヲ結フヿヲ得ズ蓋シ債主ノ地位ハ公告ノ申渡ヲ以テ既ニ確定セラレシモノナレバナリ

註○本文ハ千八百五十一年三月二十一日路安府裁判院ノ決定ノ主義ナリ○巴里裁判院モ同様ノ主義ヲ用ヒテ亡産人ノ閉鎖申渡後ニ爲セシ貸金ノ讓渡ハ債主全員ノ為メニ無効ニ歸スベシト判決セリ〔千八百五十八年十二月十八日ノ決定〕

又亡産人ハ閉鎖申渡ヲ受クルトモ他人ニ對シ自己ノ名ヲ以テ直チニ其貸金ノ請求スルヲ得ストセリ〔千八百六十三年四月二十八日馬爾塞府ノ商事裁判所ノ決定及ヒ千八百六十二年十二月十七日「パーヴル」裁判院ノ決定〕

亡産ニ管スル法律ニ於テ其成規ノ嚴酷ナルヲ矯正セントスシ多少ノ資本ヲ發見シ得ルノ希望ヲ以テ亡産手續閉鎖ノ申渡ノ實施ハ申渡ノ日ヨリ三十日間停止スベシトセリ

第五百二十八條○抑モ閉鎖ハ變更スベカラザルモノニ非ス亡産人又ハ他ノ關係アル者ハ何

時ニテモ裁判所ニ請ヒ閉鎖ノ申渡ヲ取消サシムルヲ得ベシ但シ亡産手續ノ費用ヲ支辨スベキ資本アルヲ證明シ若クハ支償ニ充分ナル金額ヲ管財人ノ手ニ預ケシムルヲ要ス

又如何ナル場合ニ於テモ債主カ各自ニ為シ得ル追訴ノ入費ハ預メ之ヲ假納スルヿヲ要ス

論者ハ亡産再生ニ及テハ初度亡産ノ後再生ノ前ニ返償ヲ受ケシ債主ハ其受ル所ノ金額ヲ財産合部中ニ繳納スルヲ要スルヤ否ヤノ問題ヲ喋々セリ

「ベアダリード」氏ノ説ニ依レバ決シテ繳納ヲ要セス其説ニ曰ク財産合部ニ繳納スルノ責任ハ返償方法ノ規則ニ背クト法律ニ違フトノ結果ナルノミ故ニ其返償方法ノ法律ニ於テ付與セラレタル權理ヲ施行セシニ止マリタルトキハ右ノ責任アルヿ無シ〔同氏ノ著書第二卷第七百葉ニ見ユ〕

巴里府ノ裁判院ハ右ノ説ニ反シ繳還ノ責任アリトセリ是最モ適理ノ論ナリ其説ニ曰ク「閉鎖」ハ亡産ノ存立ヲ止メシムルノ効力ヲ有セスト

雖モ能ク其手續ヲ停止シ債主ヲシテ各自ニ訴訟ヲ起スノ地位ニ復セシムルノ効力ヲ有ス一方ニ於テ已ムヲ得サル関係ニ因テ亡産人ハ已レニ對シ訴ヘヲ起ス債主ニ別々ニ辨償シ得ルトスルモ一方ニ於テハ若シ後チニ閉鎖ヲ取消シタル片ハ衆庶ノ損害ニ關セス獨リ先キノ訴訟人ニノミ辨償ノ利益ヲ與ヘ置クヿハ爲シ能ハサルベシ蓋シ亡産ハ嘗テ停止セラレタルヿナキカ如クニ再生スルモノナリ故ニ檢査ヲ得タル支償謝絶及ヒ公告セラレタル亡産ノ開始以來各自ノ訴訟ヲ以テ債主ノ受ケ得タル金額ハ財産合部ニ繳還スルヲ要スベシ獨リ第五百二十八條ノ成文ニハ訴訟入費ハ之ヲ返却スルヿ及ハズ何トナレハ當初ニ其支償ヲ要スレバナリト云ヘリ「千八百五十六年五月八日ノ決定」第五百二十八條ノ末段ノ成規ハ甚タ此所見ニ符合セルカ如シ

第四款　債主ノ連合

第五百二十九條及第五百三十一條○和約書ノ結果ヲ得サル片即チ和約ヲ承諾セサル片又承

諾セシ和約ノ取消サレタルトキハ債主等連合シタルモノト爲スベシ

此連合ノ實況ハ亡産ノ還算ヲ終ルマテ存立スベシ

一 爾後還算ニ就テ利害ヲ共ニスベキ諸債主ハ唯負債人ノ財産及ヒ貸高ヨリ成ルベク多數ノ金圓ヲ取リ得ル工夫ヲ爲スノ一手段アルノミ然レトモ財産及貸高ヲ賣却催徵シテ金圓ニ爲シ得ル迄ハ亡産人ニ附屬スルモノトス

註○一 里溫裁判院ノ判決ニ連合ニ係ル亡産人ト雖モ和約ヲ爲スノ希望無効ニ歸セシ後仍ホ其債主ト和親ノ條約ヲ結フノ權利ヲ有シ其條約ニ因テ自ラ我商務ヲ擔當スルヲ得ベシ但シ裁判所ノ認可ヲ受クルニ非サレバ其條約ノ効ナシトセリ 千八百四十九年八月二十九日決議

○又一方ニ在テハ路安裁判院ノ判決ニ曰ク和約書認可ノ請求ヲ拒辭セラレタル亡産人ハ假令拒辭ノ申渡ノトキ當人ニ罪ナキヲ認メラレタレトモ爾後再ヒ和約ヲ其債主ニ請フヿヲ得スストセリ 千八百四十六年五月三日ノ決議

若シ會社等ノ一己ノ人民ニ非サル者亡産ヲ爲シテ和約書ノ成ラサリシトキハ會社ノ貸高及ヒ責任社員ノ財産ハ總テ連結ノ規則ニ遵フモノトス

然レトモ千八百三十八年ノ立法者ハ謂ヘラク品行端良衆員ニ拔ンテタル一社員又ハ數社員ヲ特別ニ優遇スルハ至當ナリト因テ衆社員中ノ一名又ハ數名ノ爲メニ和約ヲ作ルヿヲ許可セリ

斯ノ如ク一社員又ハ數社員ノ爲メニ和約書ヲ作リタルトキハ會社ニ屬セシ財産〔一〕會社ハ各社員ノ所有財産ト別種ナル會社ニ屬スル財産ヲ備フル一個ノ者ト見做スベシ〕ハ總テ連結ノ規則ニ屬シ而シテ和約書ヲ得サル各社員ノ財産モ亦之レニ準ス

註○〔一〕會社ノ財産中ニ和約書ヲ得タル一社員若クハ數社員等ノ既ニ差入レタル株金及ヒ未タ差入レサル株金ヲモ含蓄セリ

然レトモ同時ニ債主等ハ和約書ヲ得タル社員等ニ其所有ノ財産即チ會社ノ財産ノ部分ニアラ

サルモノヲ返與セサル可カラス

和約書ヲ受ケタル一社員又ハ數社員ノ約束セシ分付金ハ連結ノ規則ニ屬スル社金中自己所有ノ部分ヲ以テ之ヲ支償スル能ハズ全ク社金ニ關セサル他ノ私金ヲ以テ之ヲ支償スベキハ吾輩ノ上項ニ陳述セシ所ヲ見テ以テ之ヲ明知スベシ

和約書ヲ受ケタル一社員又ハ數社員ハ之ヲ承諾セシ債主等ニ對シテハ全ク他ノ社員ト連帶スルノ義務ヲ免カル而シテ其約定セシ分付金ヲ辨償セシトキハ彼等ニ對シテ全ク負債ノ責メヲ免カルベシ

註○然レトモ若シ復權ヲ得ントスルトキハ負債ノ全額ヲ辨償スルノ責メヲ有スルハ此限ニ在ラズ

諸債主連合シタルトキハ裁判官ハ從前亡產ヲ支配セシ管財人ノ仍舊又ハ換新ヲ要スルカ及ヒ其取扱ヒ來リシ事件ノ如何ヲ直チニ債主等ト商議スベシ○而シテ此場合ニ於テハ和約書ヲ作ルニ關スル如キ不都合アラザルヲ以テ特權

アル債主不動產若クハ動產ヲ質トセル債主モ亦此會議ニ參スルヲ得ベシ

缺會議ニ於テ裁判官ハ諸債主ノ陳述及ヒ意見ノ調書ヲ作リ其調書ニ依テ或ハ從來ノ管財人ヲ保存シ或ハ新タニ他ノ管財人ヲ命スベシ

解職ノ管財人ハ主任判事ノ目前ニ於テ從來ノ計算ヲ新任管財人ニ明示スルヲ要ス但シ判事ハ亡產人ニ其席ニ出頭スヘキ由ヲ通スベシ

第五百三十條○又亡產ノ貸高ノ中ヨリ亡產人ニ救助金ヲ付與スベキヤ否ヤヲ債主ニ商議スベシ○若シ過半數即チ現在債主ノ半數及ヒ一名承諾スルトキハ救助ノ名義ヲ以テ金若干ヲ附與スルヲ得ベシ管財人其金額ヲ發言シ主任判事之ヲ定ム管財人不服ノトキハ商事裁判所ニ控訴スルヲ得ベシ書式第二百六號及ヒ第二百七號ヲ見ルベシ

第五百三十二條第五百三十四條及第五百三十五條○管財人ハ亡產ノ當初ニ於ケル如ク債主全員ノ代理人ニシテ計算ヲ定ムルノ權理ヲ有ス

管財人ハ亡産人所有ノ各種ノ財産ヲ賣拂フヿ
及ヒ其貸額借額ヲ計算スルヿヲ任ス但シ一切
主任判事ノ監督ヲ受ケテ之ヲ取扱ヒ亡産人ヲ
呼喚スルヿヲ要セス
管財人ハ亡産人ニ屬スル動産權及ヒ不動産權
ノ爭論ヲ取捌クヿヲ得ベシ但シ第四百八十七條
ニ掲示セル規則ニ準據スルヿヲ要ス
連合ヲ爲スニ先タチ法律ニ於テ亡産人ノ不承
諾ヲ以テ不動産權ノ處分ヲ防クヿヲ許セシハ讀
者ノ前キニ見タル所ナリ然ルニ連合ニ及テハ

亡産人之ヲ拒ムヿヲ得ス蓋シ立法者ハ衆庶ノ
利益ノ爲メニ亡産人ノ惡心ヲ以テ神速ニ結了
スベキ手續ヲ擬滯セシムルヲ豫防セシナリ
連合ノ目的ハ還算ヲ爲スヿニアリ故ニ貸高ヲ
現金ニ變換スルヿニ在リト雖モ時トシテハ連
合人ノ爲メニ亡産人ノ商業ヲ管財人ニ繼續セ
シムルヿヲ要用トスルヿアルベシ故ニ主任判事
ノ目前ニ於テ人員ト金數ト竝ニ四分ノ三以上
ノ多數ニ依テ決セシ評議ヲ以テ管財人ニ商業
ヲ繼續スベキ名代ノ証書ヲ付與スルヿヲ得ベシ

○此評議ハ名代ノ年限及ヒ其權限ヲ定メ且ツ諸入費ヲ支辨スル為メニ管財人ニ付與スル金額ヲ定ムベシ

亡產人及ヒ分付金ヲ受クベキ債主ハ右ノ評議ニ對シテ辨駁ヲ為スヲ得ベシ然レトモ此辨駁ハ評決ノ施行ヲ停止セス

第五百三十三條○管財人ノ處分ニ於テ製造ノ原質物及ヒ商賣品ヲ買入ルヽ等ノ一ニ付キ連合ノ貸高ニ超過セサル契約ヲ結ヒタル場合ニ在テハ各債主ハ其貸高丈ケノ責任ヲ有スベシ

若シ其契約貸高ヲ超過スルトキハ管財人ニ亡產人ノ商業ヲ行フヿヲ承諾セシ債主ハ各々其貸高ノ外ニ貸金ノ多寡ニ應シテ之ヲ擔任スベシ

然レトモ管財人其委任セラレタル權限外ノ契約ヲ為セシトキハ此限ニ在ラズ

第五百三十六條○主任判事ハ連合ノ初年ニ連合ノ債主等ヲ一度以上招集スルヲ要ス若シ猶ホ決算ヲ遷延スルトキハ毎年少ナクトモ一度招集スベシ此集會ニ於テ管財人ハ其處置ノ報告ヲ為スヲ要シ債主ハ管財人ノ仍舊ト換新トヲ評

議スベシ

註○管財人ノ仍舊若クハ換新ハ第四百六十二條及第五百二十九條ニ掲ケタル法式ニ依ヲ處置スベシ

毎年ノ招集ハ管財人ヲ奬勵スル爲メニ勢力アル方法ナリ且ツ諸債主ヲシテ其代理人ノ處分ヲ熟知セシムルノ益アリ

第五百三十七條○亡産ノ決算ヲ結了セシキハ主任判事ノ招集ヲ受ケタル債主ハ會合シテ談判事其議長トナリ亡産人ヲ召シ又ハ召シテ至ラサル上ニテ管財人ハ其計算ヲ爲ス

往昔身體拘留ノ廢セラレサル内ハ此最後ノ集會談集會ノ閉場後ハ連合全ク解散スルモノトス

二於テ債主等ハ亡産人ノ宥免ニ付テ意見ヲ陳述セリ

一之レカ爲メニ調書ヲ編成シ其書中ニ各債主ハ我カ言語及ヒ意見ヲ記スルヲ得タリ

書式第二百八號ヲ參看スベシ

註○一第四百六十條及第四百五十九條ノ前ニ記セル注文ニ拘留廢止ノ1ヲ見ルベシ

第五百三十八條○當テ債主ノ評議ニ關セサリ

シ商事裁判所ハ債主最後ノ集會ノ評議ニ依リ且ツ亡産ノ性質并事情ヲ記シタル主任判事ノ報告書ヲ參照シテ以テ亡産人ノ宥免スベキヤ否ヤヲ宣告シタリキ

裁判所ノ決議ハ之ヲ抗訴スルヲ得タリ商法第五百八十三條ヲ見ルベシ而シテ抗訴ノ期限ハ判決申渡ノ當人ニ達セシ日ヨリ之ヲ起算セリ

此決議ノ重要ヲ考フレバ是等ノ主義ノ施行ハ至當ナルヲ了解セリ

第五百三十九條○亡産人宥免ノ公告ヲ得タルキハ債主ニ對シテ身體拘留ノ責メヲ免カレ而シテ債主ハ自今亡産人ノ所得ノ財産ニ就テノミ追訴スルノ權ヲ有セリ

然レトモ他ノ亡産セシ負債人例ヘハ佛國ニ住居セサル外國人及ヒ後見人預リ人等ハ假令宥免スベキモノト公告セラルヽト雖モ身體拘留ヲ爲スヲ得タリキ左ノ法文ハ則チ此意ヲ指示セシナリ「特別ノ法律ニ依テ掲ケタル場合ヲ除キ」

○此説ヲ爲ス者曰ク彼等ノ負債ノ性質ハ特種ナルヲ以テ斯ノ如キ保証ヲ存續スルヲ要スベ

シ

若シ亡産人宥免ノ公告ヲ得サルトキハ各債主ハ身體拘留ヲ要求シテ負債ノ殘額ヲ拂ハシムルヿヲ得タリ但シ之ヲ施行スルノ勢力ヲ備ル證書ヲ有スル者ニ限レリ

第五百四十條○法律ニ於テ商事裁判所ニ亡産人ノ宥免スベキト否トニ判言スルノ權利ヲ附スルモ亡産人ノ種類ニ因リテ此利益ヲ許スヿヲ禁セリ即チ詐偽倒産人ニ重典賣人竊盜欺偽若クハ破信ニ由テ刑ヲ受ケタルモノ及ヒ公金ノ會計吏是レナリ

第五百四十一條○宥免ハ千八百三十八年ノ立法者千八百七年ノ商法中ニアリシ財産拋棄（セッシヲンドビヤンス）ノ利益ニ換ヘテ之ヲ設ケシモノナリ

財産拋棄ナルモノハ法律ニ於テ正實ナル負債主ノ不幸ニシテ亡産ニ至リシ者ニ付スル所ノ利益ナリ蓋シ負債人ヲシテ債主ノ承諾スルト否トニ拘ラス己レノ財産ヲ債主ニ拋棄シテ以テ身體ノ自由ヲ得セシムルナリ

千二百六十八條

拿破倫法典第

宥免ノ利益及ヒ財産抛棄ニ關メル佛國法典ノ成規ヲ廢セシハ身體拘留ヲ廢止シタル連絡ナリ蓋シ身體拘留ノ廢止ハ千八百六十七年四月十五日立法官投票シ同年七月二十二日布告セラレタル法律ヲ以テ決定セリ

且又該不幸ナル亡産人ト其債主トノ間ニ彼ノ抛棄和約ト稱スル條約書ヲ為スヲ得ベシ此條約ノ結果ハ財産ノ抛棄ニ由テ亡産人ヲ免解シ約束セシ自由ヲ還與スルニ在リ

此條約ハ實際ニ於テ之ヲ爲ス甚タ多シ而シテ諸裁判所ノ宣告ヲ以テ之ヲ認可セリ千八百五十六年七月十七日ノ法律ニ於テハ法規ヲ設ケテ該條約ノ主義ト施行トヲ公認スルノ目的ヲ存セリ其法規ハ茲ニ之ヲ明言セサルヲ得ス

此條約ハ我輩説明スル所ノ章中ノ第二款ニ掲載セル規則ニ準シテ之ヲ為スヲ要ス即チ人員ノ多數及ヒ債額四分ノ三ヲ有スル債主ノ承諾ヲ要シ又裁判所ノ允可ヲ受クベシ書式第二百九號ヲ見ルベシ此允可ヲ經タル上ハ諸債主ノ遵守セサルベカラサルモノナリ

千八百五十六年七月十七日ノ法律ニ於テ拋棄和約ヲ爲スニ純正和約ノ規則ヲ遵守セシメタル後仍ホ亡産人ノ債主ニ拋棄セシ財産ヲ決算スルニ商法第五百二十九條ノ第二第三及ヒ第四項第五百三十二條ヨリ第四百三十六條マテ及ヒ第五百三十七條ノ第一項并ニ第二項ニ準據スベシトセリ故ニ此時ニ於テ連合ノ場合ニ於ケル如ク商法裁判所ニ依テ確認又ハ任職セラレタル管財人アリ而シテ此管財人ハ債主全員ヲ代理シ亡産人ノ拋棄セシ財産ヲ處分シ其償還ノ計算ヲ爲シ主任判事ノ目前ニ於テモ亡産人ヲ召シ又ハ召シテ至ラサル上ニテ計算ヲ爲スヿ總テ連合ノ場合ニ於ケルカ如シ

千八百五十六年七月十七日ノ法律ハ不動産ノ賣却ニ關スル第九章ノ成規ヲ掲出セス然レトモ我輩ハ談成規ヲ施行スルハ立法者ノ精神ニ在リシト信ス何トナレバ法律ノ理由書ニ就テ見得ベキノミナラズ第五百三十四條ヲ掲出セシヲ見テモ明瞭ナリ蓋シ談條ニ於テ管財人ニ不動産賣却ノ處分ヲ委任セリ

設令拋棄和約ノ法律ニ第五百七十條ノ債主ノ
權利〔全部若クハ一部分〕賣買條約ニ關スル成規
ヲ掲載セスト雖モ此成規ハ拋棄和約ノ場合ニ
在テモ同ク之ヲ施行スルヲ得ベシ
且ツ我輩ハ諸債主ノ和約中ノ特別ナル條約ニ
因テ此種々ノ條目中ニ載スル所ノ規則ヲ免カ
ルベシト爲サス

註○「ブラヴァールド」氏ハ反對ノ説ヲ爲スト雖
モ亦不動産ノ賣却ニ就テノミ然ルナリ

千八百五十六年七月十七日ノ法律ニ據レバ亡

産人ノ財産ノ拋棄ハ全部又ハ一部分タルヿヲ
得財産ノ一部分ヲ拋棄シテ拋棄和約ヲ受クル
ヿヲ亡産人ニ許セシハ立法者ノ慈仁ト謂フベ
シ蓋シ立法者謂ヘラク債主ノ亡産人ニ拋棄財
産ノ一部分ヲ返與スルハ多クハ亡産人ノ職業
ヲ續キ得ル方法及ヒ器械トナルベシ但シ此器
械ナクテハ其技術ヲ實施スル能ハズ從テ利益
ヲ得ル能ハサルベシ又多クハ此返與ハ債主ニ
對シ亡産人ノ契約セシ債主ノ利益タル條約ノ
賞與タルヿアリ又亡産人ノ親族若クハ朋友ヨ

リ付與セシ保証物ノ賞與タルヿアルベシ故ニ畢竟其實ハ亡産人ノ利益ヨリ債主ノ利益ヲ為ス所ノモノナリ○此成規ヲ設立セシ理由書ノ主旨タルヤ上ニ述ル如シ

新法ニ於テハ拋棄和約ハ他ノ和約ト同一ノ効カヲ生出スルトセリ勿論裁判所之ヲ認可セシ以上ハ諸債主ノ遵守セサルベカラサルモノトナレリ然レ𪜈大ニ通常ノ和約ニ異ナル所アリ何トナレハ通常和約ノ如ク亡産人ヲシテ其商務ノ主ト為サス其財産ノ支配ヲ還付セス一且其財産ヲ決算スルハ吾輩上項ニ掲ケタルカ如シ

註○一裁判事例ニ據ルニ財産拋棄ニ因テ結ヒシ和約ハ亡産人ノ身上ニ就テ亡産ノ狀況ヲ止メタルノミニシテ其財産ニ就テハ依然亡産ノ實況ヲ存セリ故ニ亡産事件ノ慣習タル取扱方ニ準シ并ニ商法第四百五十條及ヒ其次條ニ掲例セル訴訟ニ從ヒ財産ノ決算ヲ為サヽル可カラス大審院民事局千八百六十四年二月十日連努裁判院千八百六十一年一

月二十九日及ヒ阿爾連安裁判院千八百六十八年五月二十日ノ決議

○殊ニ亡産人財産ヲ抛棄セシ時ハ第四百四十七條ニ豫知セシ場合ニ在テ裁判申渡ヲ以テ債主ノ既ニ領取セシ金高ヲ返付セシムルハ亡産ノ主任判事ノ報告ヲ爲セシ上ニ非サレバ當然ニ之ヲ為スヲ得ス

阿爾連安裁判院千八百六十八年五月二十日ノ決議

千八百五十六年ノ法律ニ曰ク抛棄和約ハ他ノ和約ト同一ノ方法ニ依テ取消若クハ解除スベシト或ル論者ハ此成規ヲ辨駁セリ其注意セシモノハ何ソヤ通常和約ニ在テハ解除ノ原由ハ唯一項アリ條約承諾ノ約ヲ履行セサルヿ是レナリ語ヲ易ヘテ之ヲ言ヘハ約束セシ分付金ヲ拂ハサルヿ是レナリ然ルニ抛棄和約ニ關スルトキハ此解除ノ原由ハ之ヲ用ヒ得サルナリ何トナレバ負債人ハ更ニ分付金ヲ拂フヲ約セズ又他ノ義務ヲ約束セシヿナシ諸債主ハ負債人ノ資産ヲ領収スルハ蓋シ負債人己レノ自由ヲ受ケタル代償トシテ之ヲ債主ニ抛棄セシモノナ